

---

平成25年 老 岐 市 議 会 定 例 会 9 月 会 議 会 議 録 (第4日)

---

議事日程 (第4号)

平成25年9月18日 午前10時00分開議

日程第1 一般質問

- 15番 鵜瀬 和博 議員  
7番 今西 菊乃 議員  
1番 赤木 貴尚 議員  
3番 呼子 好 議員

---

本日の会議に付した事件  
(議事日程第4号に同じ)

---

出席議員 (16名)

- |            |            |
|------------|------------|
| 1番 赤木 貴尚君  | 2番 土谷 勇二君  |
| 3番 呼子 好君   | 4番 音嶋 正吾君  |
| 5番 小金丸益明君  | 6番 深見 義輝君  |
| 7番 今西 菊乃君  | 8番 市山 和幸君  |
| 9番 田原 輝男君  | 10番 豊坂 敏文君 |
| 11番 中田 恭一君 | 12番 久間 進君  |
| 13番 市山 繁君  | 14番 牧永 護君  |
| 15番 鵜瀬 和博君 | 16番 町田 正一君 |
- 

欠席議員 (なし)

---

欠 員 (なし)

---

事務局出席職員職氏名

- |         |        |       |        |
|---------|--------|-------|--------|
| 事務局長    | 榊崎 文雄君 | 事務局次長 | 米村 和久君 |
| 事務局次長補佐 | 吉井 弘二君 | 事務局書記 | 若宮 廣祐君 |
-

説明のため出席した者の職氏名

市長	白川 博一君	副市長	中原 康壽君
副市長	山下 三郎君	教育長	久保田良和君
総務部長	眞鍋 陽晃君	企画振興部長	山本 利文君
市民部長	川原 裕喜君	保健環境部長	斉藤 和秀君
建設部長	原田憲一郎君	農林水産部長	堀江 敬治君
教育次長	米倉 勇次君	消防本部消防長	小川 聖治君
病院部長	左野 健治君	総務課長	久間 博喜君
財政課長	西原 辰也君	会計管理者	土谷 勝君

午前10時00分開議

○議長（町田 正一君） おはようございます。

会議に入る前にあらかじめ御報告いたします。壱岐新報社ほか2名の方から報道取材のため、撮影機材等の使用の申し出があり、許可をいたしておりますので、御了承願います。

ただいまの出席議員は16名であり、定足数に達しております。

これより議事日程表第4号により、本日の会議を開きます。

ここで白川市長より発言の申し出がっておりますので、これを許します。白川市長。

○市長（白川 博一君） おはようございます。御報告を申し上げます。

昨日、17時15分、九州電力芦辺発電所において火災が発生いたしました。建屋内から発生したと見られるこの火災では、一時黒煙とともに大きく炎が上がり、私も一報を受けまして現場付近に駆けつけましたが、郷ノ浦庁舎を出て間もなく黒煙が確認できるような状況を目の当たりにいたしまして、大きな惨事になるのではないかと大変心配したところであります。

こうした状況の中、消防団、消防署等においては、決死の消火活動が行われ、幸い施設の一部を焼くにとどまり、けが人等なかったことは不幸中の幸いでありました。プレス発表によりますと、芦辺発電所に設置されている6号機から10号機のうち、唯一稼働していた10号機から発生したとありますが、今後の原因究明が待たれるところであります。このような施設においては、一旦有事が発生いたしますと大惨事を引き起こしかねず、原因の究明、事故の再発防止を強く求めるものでございます。

さらに、こうした事故が市民皆様の原発に対する不安を大きくするものでありまして、まことに遺憾に思いますと同時に、今後も安全管理の徹底を強く求めるものでございます。消火活動に当たっていただきました消防団員皆様に、心からお礼を申し上げまして御報告とさせていただきます。

---

## 日程第1. 一般質問

○議長（町田 正一君） 日程第1、一般質問を行います。

あらかじめ申し上げます。一般質問の時間は、質問、答弁を含め50分以内となっておりますのでよろしくお願ひします。

なお、壱岐市議会基本条例により市長には反問権を付与しておりますので、市長から反問権の行使があった場合は、議員は速やかに答えるようお願いいたします。

質問通告者一覧表の順序によりまして、順次登壇をお願いいたします。

それでは、質問順位に従い、15番、鵜瀬和博議員の登壇をお願いいたします。

〔鵜瀬 和博議員 一般質問席 登壇〕

○議員（15番 鵜瀬 和博君） それでは、通告に従いまして壱岐市長、そして教育長に対しまして15番、鵜瀬和博が質問をさせていただきます。

大きく2点。

まず1点目、遊休地、遊休施設の活用についてをお尋ねいたします。

廃校となった学校施設跡地の、今後の管理及び活用につきましては、昨日の同僚議員の質問にもありましたが、私もこれまで目に見えた進捗や報告はなく、何度となく市長に対しまして一般質問を行ってきたことは、市長も御承知のことと思います。

平成23年12月の一般質問の答弁では、校舎活用については大学、専門家、アーティストに解放していきたい。特に協定を結んでいる長崎大学と離島振興のまちづくり、子育て、教育に協力し、サテライトゼミとして活用を図りたい。壱岐の島づくりや商店街の活性化等についての研究調査をするために、連絡協定に基づき早急に大学との動きを進めたいと言われましたが、しかしその後の進展もなく、平成24年6月でも離島地域の諸問題解決のため、長崎県市町村行政振興協議会を窓口に関内外の大学と連携を図っていかなければならないと言われました。

しかし、この時点で市長の反省としまして、今言われた内容につきまして明確な支持をしていなかったということで、次回の質問の際にはこの明確な答えを出すとはっきりと言われております。また、最後には議員のほうから質問を待つのではなく、定例会ごとに報告をするとまで言われております。その市長の指示のもとに、きのうの答弁の内容でもありましたとおり、平成24年8月に中原副市長を委員長、久保田教育長を副委員長として、各部長12名で構成する壱岐市中学校跡地利活用検討委員会を設置をされております。

平成25年2月の一般質問の中原副市長の御答弁では、箱崎中学校のグラウンドの一部を特別養護老人ホームに、渡良中学校に渡良小学校を今後移転するということと、鯨伏中学校を日本漁場藻場研究所に提供すると、6校中3校は決定しているとの御報告でした。

このほか、それまでに消防団の備品倉庫や書庫、農業のバイオマス施設として検討されたり、那賀中、箱中の給食室をJAいきの加工部に提供してはどうかとの検討もされております。このほか、現在ある中学校のほかの跡地を解体して一つの団地をつくり、農作物の圃場としてはどうだろうか、または一戸建て分譲地として活用できないかなどを検討をしておりますが、先ほども報告したとおり、確定としては現在3校だけで、その施設の一部利用となっていました。それを受けて、副市長もなるべく早く利活用の検討報告をしたいと答弁をされました。あれから、はや半年を過ぎました。その進捗状況を改めてお聞きします。

また、きのう市長の答弁では、鯨伏中学校については明言がありませんでしたが、2月の時点から現時点での鯨伏中学校の活用については話がなくなったのか、再度お尋ねをいたします。

2点目、中学校跡地だけに限らず、このほかサンドーム壱岐などの遊休施設や遊休地があり、この間その市の管理責任として活用、使用しなくても維持管理費が発生をしております。今後、さらに渡良中学校に渡良小学校を移転すれば、現渡良小学校の活用について、また壱岐カントリークラブの9ホール拡張断念により、無償貸与していた土地約46万8,000平米の土地も返還予定となっております。小学校統廃合検討委員会並びに芦辺中学校校舎建設検討委員会や、庁舎建設検討委員会の答申結果次第では、さらに遊休地、遊休施設がふえる可能性も考えられます。

第1期壱岐総合計画が、平成26年度末で終了をします。第2期総合計画策定までに早急にこの遊休施設、遊休地の活用方法を売却も含め検討すべきと考えますが、計画策定の時期も含め、市長のお考えをお聞かせいただきたいと思っております。

3つ目、活用方法について。これまで、平成23年3月から私のほうも提案をしてきております。部長以上で構成します検討委員会での計画策定に、仮に限界があるとしたら、例えば若手職員によるプロジェクトチームの設置や島内外大学を含め、活用方法を公募してはどうだろうかと考えます。

これまで、その公募の方法としては、まず1つとしては文部科学省の未来につなごうみんなの廃校プロジェクトにまず登録をして、地方公共団体と活用希望者のマッチングをホームページに掲載、紹介してくれますので、ぜひこのみんなの廃校プロジェクト等に登録をして公募をしたらどうだろうかと考えております。

また、市長の行政報告にありました第37回全国高等学校総合文化祭2013長崎しおかぜ総文化祭の郷土研究部門の発表会において、壱岐商業高校の情報メディア部の「おいしい、楽しい、島合宿」の企画が最優秀賞に輝いております。

この内容としては、市長も御承知とは思いますが、壱岐合宿の現状分析とマーケティングリサーチ、テストマーケティングを行いまして、壱岐の魅力でもある食材のすばらしさや合宿環

境の体育館、グラウンド、テニスコートなどが整備をされており、受け入れるには十分な施設があります。また、こういったので足りない場合については、廃校施設の活用にも言及をしております。

また、壱岐市島外スポーツ団体誘致促進助成制度として、素晴らしい制度はあるものの、その制度の認知度の低さ、すなわちPR不足も指摘をされておりました。将来的には高校生としても、合宿パックを開発し、壱岐が合宿のメッカとしてにぎわい、壱岐離島経済再生の規範になることが、私たちの夢であるとまとめられています。壱岐を愛する高校生が企画したこの内容について、市としてどのように検討しているのかお聞きします。

以上、3点について市長の答弁をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（町田 正一君） 鵜瀬議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 15番、鵜瀬和博議員の御質問にお答えいたします。

遊休地・施設についてということで、3点ございます。

1点目の中原副市長を長とした中学校跡地利活用検討委員会のその後の活用計画を策定するということがあったが、その進捗状況はということでございます。

この御質問につきましては、昨日の市山和幸議員の質問にも答えた内容と同一でございまして、先ほど鵜瀬議員がおっしゃったこと、その部分は割愛をさせていただきたいと思っております。

箱崎中学校グラウンドにつきましては、介護老人福祉施設の使用でございまして、いま一つ提案がっております。これについても、近いうちに皆様方にお知らせをできるというふうに思っているところでございます。

それから、鯨伏中学校につきましては、日本魚場藻場研究会のほうに一応どうぞということをお願いしておりますけれども、具体的な、今、芦辺に御存じのように事務所がございまして、具体的な活動が見えないという状況にございまして、これはやはり打診といえますか、どうですかということはやっぱり早く言わなきゃならないと思っているところでございます。

それから、大学と連携等々の話でございまして、残念ながら今は全く進んでいないと思っております。これにつきましても早急にさせたいと思っております。その折に、長崎大学の御卒業である鵜瀬議員にもひとつ御協力をお願いすると、私は申し上げたと思っております。ぜひ副市長に、鵜瀬議員との話もさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思っている次第であります。

それから、2番目の遊休地・施設の活用についてどのようにしていくのかということでございます。

行政目的、いわゆる用途を持った公共施設は行政財産としてそれぞれの所管部署において管理

されますけれども、その行政目的が何らかの理由で廃止されたときに、普通財産となるということでございまして、カントリーにつきましてもそういった感覚でございます。普通財産となった遊休地・施設は、売却も含めて他への活動方針を検討いたしますけれども、活用される計画もなく、方針が策定されていないものについて売却が可能とした場合、公募売却処分を行います。そのとき、施設が存在しても売却できると判断すれば、現状のままで公募売却とし、建物を取り壊したほうが売却可能と判断すれば、建物を取り壊し更地化して公募売却を行っております。

市が保有する遊休地は、行政目的がなくなった物件、すなわち行政でも利用したいものであり、すぐに購買者が見つかるような条件がいい物件は少のうございます。公募しても申し込みがないこともあります。

そのような状況の中で、公募売却実績を申し上げます。平成22年度、土地4件、1,192平方メートル、826万6,445円、平成23年度、土地2件、建物2件を含みまして286.11平米、563万5,002円、24年度、土地4件、建物1件を含みます1万4,722.02平米、2,476万9,761円でございます。今後も普通財産となった遊休地・施設について、行政財産として活用できる物件につきましては有効利用を図り、活用される計画もなく方針が策定されないものについては、公募売却も視野に入れて処分していきたいと思っております。

なお、カントリーの土地の問題の、土地の利用方法の計画策定につきましては、26年4月1日で普通財産になると思われますので、そういうふうになった時点で速やかに策定をしたいと思っております。

それから、若手のプロジェクトチームあるいは公募、これにつきましてもきのう、プロジェクトチームはもちろんつくりますけれども、公募につきましては昨日も申し上げましたが、市山和幸議員の御提案を受けまして早速検討するよう指示をしたところでございます。

そしてまた、文科省の、済みません、希望つなぐ云々のプロジェクトにつきましても、加入を早く登録をしてそういったものをやる必要があると思っております。そして、今、一つ、サンドームのことをおっしゃられましたけれども、やはりこの施設につきましても、非常に経費がかかるという建物でございまして、そのことが今休館をしていると状況でございます。したがって、どの辺まで赤字でも活用すべきか、なかなか営業をして、あそこを運営するのにそれだけの利益を生むというような活動はなかなかできないと思っております。

そういった中で、どういうものに適用するのか、私もいつまでもあの施設をあのままにしておくということは本意ではございませんし、今、一つだけ考えておりますこともございますが、具体的に申し上げる段階になっておりませんので、なるべく早くあのような施設につきましても、ぜひ解決したいと思っております。

それから、壱岐商業高校、本当にすばらしい最優秀賞という快挙を成し遂げられました。この

情報メディア部の「おいしい、楽しい、島合宿、壱岐」の提案でございますけれども、この中で先ほど申されましたとおりでございます。ただ、この現状分析の中で、その種目別順位というのはバレーが一番ですね。2番に野球、テニス、バスケットボールとなっております。それから、マーケティングリサーチでは合宿地を決定する上で最も重要なポイントは何か、それは練習環境ということになっておるわけでございます。

このようなことから、遊休地・遊休施設を合宿に提供するためには、施設整備、環境整備等課題も多いと思いますが、選択肢の一つとして引き続き検討させていただきたいと思っております。なお、この壱岐商高情報メディア部の件につきましては、後ほどの質問の中にも出ておりますので、そこでもお答えいたしますけれども、このPR不足、情報発信の不足といったものについては真摯に受けとめなきゃいけないと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 鵜瀬議員。

○議員（15番 鵜瀬 和博君） 今回、遊休地・施設についての活用については市長も前向きの御答弁をいただいたと思っております。

毎回、先ほども時系列的に市長の答弁をお話をさせていただいたときに、ほとんどが前向きの答弁なんですよね。もう私としてはその場で「これは、やってもらえるんだな」というふうに思っていて、それ以後は言いませんが、ただ一向に事態として進まない。

市長が言われたのは、指示が自分としてできてなかったということで、今回その検討委員会の長である中原副市長にするよということと言われました。その検討委員会の中で協議はされるでしょうけども、その担当所管としてはどこが最終的にその責任を持ってこの件についてされるのか、再度お尋ねします。

もちろん、その結果を受けて、副市長が委員長ですから、その検討結果については市長にまた報告があるんだろうと思いますが、市長と副市長の命令系統はわかるんですが、その後の命令系統が現時点でわからないという点が1つありますので、その点についてお尋ねをいたします。が1点ですね。

また、それぞれの例えば現在活用方法が決まっている学校につきましては今、箱中のほうでまた再度違う提案が今、市長のほうに上がっているということで内部のほうで今検討をされているようですので、その分については十分検討をさせていただきたいと思っております。また、先ほど市長も言われました長崎大学のほうにぜひ話を持って行って、副市長と行ってくれないかということは、これも前言われたおりました。ぜひそれも私のできる範囲であれば、どんどん協力してやっていきたいと思っておりますので、その件についてはぜひ協力をさせていただきたい。

ゴルフ場の土地につきましては、来年の3月31日で一応契約日が切れて、壱岐市のほうに返

ってくるわけですが、市長の御答弁では返ってきた時点で策定をしたいというふうに言われました。いずれ返ってくるんですから、今のうちから検討するのが当然だと私も思います。また、この利活用の活用については若手のプロジェクトチームを設置すると、そしてまた今回提案している文科省のみんなの廃校プロジェクトにも登録をします。そして、きのうの市山議員が言われた答弁のとおり、活用については公募をしていくということで、再度それでいいのか、そういうことなのかお尋ねいたします。

また、それぞれの、市長がいつも言われます早急に、できるだけ早急にしたいと。これは、常日ごろから私もよくお聞きします。それで、私が今言っているのは第1期の壱岐市総合計画が26年度末で終了するわけですね。これも市長も御存じだと思いますけど、今度第2期のまた合併後10先からの10年の総合計画を策定する時期に来ております。そうしたときに、財政的に厳しい中でやっぱりスリム化、スクラップ・アンド・ビルドっていうのをしていかなければいけないときに、悠長に検討します程度ですとなかなかその贅肉がそぎ落とせないような状況なんですね。

今、先ほど市長も言われましたいろいろ遊休地、遊休施設の売却については、大体4,000万円ほどここ何年かで収入が上がっているようでございます。売り方次第では、かなり民間の壱岐島内に限らず、島外からの民間の購入も出てくるんじゃないかと。そうすることによって、例えば雇用がふえるとか、そういう部分も出てきますので、ぜひその点についてどこまで、いつまでに検討をするのかをお願いをしたいと思います。そうしないと、逆に検討委員会の委員長である中原副市長も、いつまですればいいのかという指示がないものですから、その分については検討ができないんじゃないかなと思っております。その点について再度お尋ねをいたします。

3点目の壱岐商業高校の企画につきましては、市長も言われましたとおり、今後壱岐市島外スポーツ団体誘致促進助成制度については、今まで以上に宣伝を、PRをしていくということによるらしいですね。言われております。

実際、今現在壱岐の合宿パックを扱っている旅行社はあるんですね。その中で二、三お話を聞きますと、壱岐市内には公共施設には定休日というのがあります。各施設にですね。特に春夏には合宿が多いんですが、そういった部分についても、やはり臨機応変に現場サイドで対応をしていただきたいというふうな御希望もありましたので、ぜひその点についてどのように今後、要は受け入れ側の施設については、廃校施設についても使える分については整備をしていくというように市長が今言われましたので、そういった部分の人的配慮を、配置ですね、その辺についても御答弁をいただきたいと思います。もう一度お願いします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕



○市長（白川 博一君） 私は、鵜瀬議員がおっしゃいますように、常に前向きでおるわけでございますけれども、それをやっていない、お返事できないということは私の指導力不足によるというところで反省をいたしております。そのことをまず、申し上げておきたいと思っております。それにつきましては、やはり私も指導力が不足しているということで反省をいたします。

ところで、第1点目の中学校跡地利用につきまして、最終的に責任は誰はあるのかということでございますけれども、これは事務局を教育委員会に置いておきまして、教育委員会と管財課、あるいは企画振興課等々が協議をしておるわけでございますけれども、やはり責任は私にあると思っております。現場の責任については中原副市長であるということで御理解いただきたい。最終的に私でございます。

そして若いチーム、若い職員によるプロジェクトチームをとということでございます。これについてもやります。それから、公募につきましても、それはもう先ほど申しましたように検討するようというところで指示をいたしておりますので、早速もろもろの方法でやりたいと思っておるわけでございます。

それから、先ほど私が市の所有になってからということをお願いしました。御指摘のとおりであります。これまた、なるべく早急にという言葉になるわけですが、策定していきたいと思っております。

それから、土地の売却あるいは建物売却等について島外も視野に入れてということでございます。これにつきましては、やはりその物件によって島外の人がいいのかというようなこともございますので、それ辺を慎重に見極めまして島外の人御購入されても支障がないというような物件を、やはりちゃんと精査して売却していきたいと思っております。

それから、いつまでにやるのかということにつきましては、これはやっぱりそれぞれにいろんな条件等々も考慮しなければいけません。ここではいつまでということは差し控えさせていただきますけれども、現場には中原副市長等々、いわゆる現場にはいつまでやりなさいということを確認に支持したいと思っておるところであります。

それからPR不足、情報のPR不足、特に合宿、スポーツ団体の誘客の事業についてPR不足、これはもう間違いないところございまして、商高の発表の中でも壱岐で合宿したいという人は6割もいるのに、この助成金があるということを知っている方は1割にも満たないという報告でございます。これは事実でございまして、それはやはりPR方法等々をやっぱり考えていかなければいけないと思っておるところでございます。

また、合宿にお見えになった、あるいはスポーツ交流でお見えになった、そういう方がお見えになる向こうの都合がいいときに休館日であるとか、そういったことで使えませんよということでは話にならんわけございまして、それにつきましてもやはりその日になってということとはな

かなか厳しいと思いますけれども、やはりこれは柔軟に対応していかなければいかんと、もう議員御指摘のとおりだと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 鵜瀬議員。

○議員（15番 鵜瀬 和博君） ぜひ早急にということで、個別については市長のほうから中原副市長、委員長のほうに御相談があるでしょうから、質問せんでも報告できるようにぜひ早い時期に今回も前向きにいただきましたので、ぜひ結果が出ることを、早急に出ることを期待して終わります。

ここで、廃校地の跡地活用についてちょっと市長も御存知だろうと思うんですが、実は文部科学省が地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）、これもうきのうの長崎新聞にも載っていたんですけども、要は離島の人口減少、少子高齢化が全国的に問題になる中、生活体験に基づいた解決策を考え、社会で通用する人材を育成するというプロジェクトがあるんですが、その中で長崎県内では長崎県立大学が採択をされておまして、それが一応佐世保校と本校である長与町、そして新上五島町、この3つを結ぶキャンパスをつくって行って、そこで離島の振興等をするようになっているんですが、その中で10人程度のグループで約一週間にわたって五島、壱岐、対馬などに滞在をするそうです。その中で、限界集落の振興策を考えたり、伝統的な食文化の掘り起こし、島民の幸福度調査などをして離島の活性化につなげるということで、そういうことをするものですから、離島各地にサテライトキャンパスを設置する方針みたいです。

ということは、今現状である、現状で空いている廃校の教室等をぜひ活用していただいて、あわせてそのそのこの廃校地の活用も検討していただければ、そこで人が交流して、そこから何らかの企画が出てくるんじゃないかということもありますので、早速その県立大に行っていただいて、そういった部分を協議をしていただきたいと思います。予定では、来年度から必修科目として新人入学生から必修化するそうですので、ここ半年、来年3月までにぜひ内容を詰めていただいて、一応10人程度というふうになっておりますが、1人でも多くそういった学生を来ていただいて、そういうのを形にしていいただければなということをお願いをしておきます。この点について市長。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） そういう情報については私、済みません、今初めて聞いておりますので、早速私なり伺いたいと思っております。早速アポをとって行きたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 鵜瀬議員。

○議員（15番 鵜瀬 和博君） ぜひ市長のリーダーシップを期待して、この質問を終わりたい

と思います。

2点目、教育についてお尋ねをいたします。

市長は日ごろより子供は壱岐の宝である。壱岐のかけがえのないこの子供たちが健やかに成長できる環境づくりに積極的に取り組むと言われております。学校教育予算については、壱岐の将来を担う子供たちへの投資と考えているので重要と考えます。市長、教育長においては、この学校教育予算についてどのように現時点で考えているのかお尋ねをいたします。

また、市長の行政報告や、きのうの質問の中でも出ておりました2020年オリンピック東京開催が決定をされております。7年後のオリンピック選手として活躍するのは、現在小学生、中学生、高校生と言われております。

さて、近年壱岐の子供たちにおいても陸上競技、サッカー、野球などのスポーツでの活躍は大変目覚ましいものがあります。本人の才能や努力はもとより、各スポーツ協会関係者や指導者の御指導と保護者の御理解、御協力のたまものと思っております。そのような中、来月10月に横浜の日産スタジアムに開催されますジュニアオリンピックの全国大会に長崎県代表として芦辺中学校1年の田中亜可梨さんが出場され、その活躍に大変期待するところであります。

このような子供たちの活躍により、壱岐のイメージや知名度を上げるプロモーションの場や機会ともなり、国内外からのスポーツツーリズム等の観光客の増大にも寄与することにもなります。長崎かんばらんば国体の機運が高まっている今、壱岐からもオリンピック、パラリンピックの選手を輩出するよう指導者の育成やスポーツ環境整備をしてはと考えますが、市長、教育長の考えをお聞かせいただきたいと思っております。

2点目、市内も少子化の影響を受け、小学校の複式学級編成の増加や芦辺小学校建てかえを含め、小学校の統廃合について現在小学校統廃合検討委員会が設置され、平成26年2月末の答申に向けて現在協議が進められております。平成25年、複式学級を持つ小学校は市内20校中11校で、延べ19学級となっております。小学校の複式学級が編成されれば、先生の数もおおのずと減り、学校運営の影響が出たり、複式の担任への負担がふえたりします。

市長の行政報告でもあったように、県内21市町村別の長崎県学力調査の結果は、小学校の部で第1位、その中でも5年生を複式学級に持つ学校の成績は上位に位置しており、各学校の取り組みの成果が出ている結果だと思っております。しかし、現状としては子供だけではなく、保護者の中に学力の低下等不安を抱えている人もいまだ多いようです。そのような不安を取り除くために、公平に教育機会を受ける権利からも教育の島、壱岐ならではの教員の加配や非常勤講師の配置などをすれば、新たなそこに雇用の場が創出ともなるので、離島特区構想は考えられないかとの質問に対し、市長は離島を多く有する長崎県に、平成24年度に壱岐市として要望書を提出すると言われ提出をされております。

内容としては、県下離島の状況を踏まえ、複式学級編成の引き下げを図ること、2つの学年の児童で編成する県の基準である16人を10人に引き下げること、1年生、6年生は複式学級の対象学年としないこと、複式学級を編成する学校への人的複式学級支援非常勤講師の配置を図ることとなっております。その後、県からの回答はどうだったのかお尋ねをいたします。

また、県として予算などの対応が厳しい場合には、市としてどのように対応するのかお尋ねをいたします。今回、離島振興法改正により設けられた離島活性化交付金の活用はできないのかをお尋ねします。市長については最初の質問についてお尋ねをいたします。②については教育長のほうで御答弁いただき、両方考えられていますか。じゃあ、両方よろしくお願いします。

○議長（町田 正一君） 教育長。

〔教育長（久保田良和君） 登壇〕

○教育長（久保田良和君） 15番、鶴瀬議員の質問にお答えをいたします。

初めに、学校予算についてどう考えるかということでございました。教育委員会が管轄をいたします幼稚園、小学校、中学校、それぞれ目標がございますし、その目標に従っていろいろな手だてをとっていきます。そういう中での予算の使い方につきまして、委員会の中できちっと討議をしながら、毎年市長のほうに要望を出しまして、今年度社会がこのような状況に変化をしている。児童生徒がこのような状況にあるという形の中から、まず請求をしながら予算組み立てをしているところでございます。

その後、委員がおっしゃるいろいろな予算の使い方につきましては、それぞれの園、学校を預かる校長のほうから出されます改修時点、あるいは施設、備品の要望等を私どものほうで精査をいたしまして、時には出向き、時には聴取し、その優先度、危険度、緊急性等を考慮しながら、その予算の執行にあたっているところでございます。

後半の質問にありますように、長崎国体あるいは東京オリンピック等、青少年に希望を持たせ、目標を持たせる素敵なそういう状況がある中で、これから予算の使い方についても一定また視野を広く持てという御指摘かと受けとめているところでございます。

今年度の国民体育大会が東京で開催されます。その九州ブロックの予選を突破して、男子のバレーで山川賢祐さんが、成年女子のソフトボールの部で豊永優さんが壱岐市出身の方でございますが、2人ともこのチームとしての国体の選手になっていられることももしかしたら御存じかと思えます。こういう具合に純粋な壱岐の方も、小さいころから持ち合わせた身体能力にあわせて、御家庭の熱心な指導の中であるいは出合わせた指導者との中からこのような形で中学、高校、大学へと進まれ、現在大学に在学中でございますが、このような運びになっていらっしゃいます。

先ほどお話にありました田河中学校の田中亜可梨さんについても、御家庭の熱心な指導が功を奏しているもの、個人の資質能力はもちろんでございます。これまで、私どももどちらかという

ますと、そういう家庭教育の熱心さの中で子供の持っている資質を伸ばしていただいて、そこまでお育ていただいているものと反省をしておりますので、こういった状況の中でこれから壱岐を代表し、あるいは県を代表して都道府県対抗云々等の大会等に、あるいは全国大会等に足を運んでいただける方がチームや競技の個人としてもある場合に、何らかの具体策を、支援策をそこで講じていかなければならないと考えているところでございます。

そういった意味での御指摘の指導者の育成につきましても、大変これは重要ではあるし、しかし簡単ではないと受けとめております。打ち込む気持ち、先輩に学ぶ気持ち、耐える気持ち、どうかすれば家族を犠牲にするような気持ちを持って、そこまでお取り組みいただいて初めてのいろんなハードルを越えて全国に、あるいは晴れてオリンピックの代表になるような若い競技者お育ていただけるものだろうと思いますが、でも何も手をつけないでじっと見ていくことはできませんので、そういったところから少しずつ環境整備も含めまして、私どもも考えさせていただきたいと思っております。

2つ目の小学校統廃合にかかわる部分についてのお尋ねについて、幾つかお話をしておきたいと思いますが、まず御指摘のように24年度知事要望に市長、議長、私もそしてまた山本県議も同席をいたしまして、要望をいたしました。そのときに、数ある要望の中で重要な事項として複式学級編制基準の引き下げというのを上げまして、直接私のほうからも要望をいたしました。そのときの回答が、やはり県下同じくしなければいけないという部分の回答の域にとどまり、県全体で進めるものですよということから、後ほどいただいた答えも進歩をしておりますでした。

私のほうは24年度末の人事作業において、この複式学級支援非常勤講師が3名配置されている壱岐市の実態の中から、次年度はもう少しふやしてほしいということ、強く要望をいたしました。国、県の基準等の中から、なかなか進歩を見ませんでした。しかし、2月末の人事作業の中で私どものあるいは市長要望に対する知事の指示があったのかどうか分かりませんが、県教委としては複式学級の中で、理科の授業を2校兼務する形での教師を1名配置するが、壱岐市としては希望するかという提案がなされまして、私どものはやりますということですぐにお答えをし、現在初山小学校を基盤に沼津小学校との兼務で5年、6年あるいは3年、4年の複式学級の理科授業については、この勤務者が対応して複式学級への不安をなくす方向での取り組みをしているところでございます。

おっしゃるような複式学級に子供がなったときに、授業を見たときに、保護者が心配をされる向きがございます。しかし、凶らずも今回、長崎県学力調査の中で5年のそういった平均正答率が順位を占めたということは、これまで三島小学校の複式学校における授業の成果を本島の小学校が受け継いで、そのような指導力を持った先生方が学校を挙げての複式学級の努力に取り組んだ部分の幾らかの成果はそこにあっただろうと思ひ、この複式学級を見られて、半分は授業をさ

せられているという見方を持たれる保護者には、ぜひ壱岐市の進めている複式学級の授業のあり方はそうではない。半分以上子供たちが、自分が進んで授業をし、みずから調べ、みずから課題解決にあたっているという姿をわかっていただいた結果が、今回の平均正答率につながっているということ、私は強く訴えていきたいと思えます。

もちろんこの後も複式学級が続く学校についての取り組みはいたしますが、さらに25年度に向けては議員御指摘のように複式学級支援非常勤講師の増をまず第一に考え、10月に予定されております知事要望についても重点項目として進めていくつもりでございます。なお、図らずも今回、8月の27日に県教委がまた新たな動きを示してくれました。それは、学力向上における非常勤講師支援に市町が、各市と町が市と町の予算でもって一定配置をするとするならば、県がその2分の1近くを補助するという形で計画書の申請を求めてまいりました。

私ども教育委員会は、検討をいたしましてすぐさまその計画書を上げ、非常勤講師4名配置で壱岐市の場合には取り組みたいということで市長と相談をしながら、計画書を出す時点では進めております。このことを受け入れてもらえば現在複式学級で、しかも小学校5年、6年で16人に近いような学級編成を余儀なくされている学校についても、複式支援学級非常勤講師等の配置が可能になって、保護者が持たれる、子供が持っている不安等の解消に幾らかはつなげることができると考えております。

もし、この県の事業がなされない場合は、私はぜひ議員さん方の理解を得られて、市単独でも2名ないし3名から4名の壱岐市における県下ではない例になりますが、この複式支援学級非常勤講師に近い授業のできる非常勤講師、これは免許を持たなければなりません。そのような配置をかつて議員さんのほうからも御指摘をいただいておりますので、何とか進めていきたいと考え、幾らかの攻め方を考えながら、今回の知事要望等にもあたっていきたくて考えております。どうぞ御理解をいただきながらよろしくお願いをいたします。

離島活性化交付金等につきましては、市長のほうを担当としてお答えになると聞いておりますので、そちらのほうにお返しをします。よろしくお願いをいたします。

〔教育長（久保田良和君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 鵜瀬議員の2番目の御質問にお答えいたします。

まず、予算につきましては、御存じのように地方教育行政の組織と運営に関する法律の中で、教育行政をするにあたって地方公共団体の長は教育委員会の意見を聞かなければならないと規定さえております。当然のごとく、私も教育委員会の意見を尊重して予算を思っておるところでございます。

そして、第1点目のオリンピック選出を輩出するような指導者の育成、環境整備をしたらどうかという御意見でございます。できることならそのようにしたいと思っておりますけれども、オリンピック競技、何種目あるかわからない、そしてまたどういう子供が出てくるかわからないという状況にありますので、当面、私はそういうすばらしい選手が出てきた場合は、その指導を受ける環境について支援をしていきたく思っております。

2番目の、学校予算、特に県知事に要求したその回答及び予算等々についてでございますけれども、県知事のお返事につきましては先ほど教育長が申したとおりでございます。ただ、申し上げておきたいのは6年生を複式学級に持つ複式学級編成で15人、16人と人数多いところでございます。今、県がそういう動きをしておりますので、期待をしたいと。2分の1で期待をしたいと思っておりますけれども、もしこれがなかったという、まだ決定ではございませんのでないということになりますと、今壱岐には人材もおられるということでございますので、そういった場合は単独でやりますということを教育長に明言をいたしたところでございます。

離島活性化交付金を活用できないかとお尋ねでございますけれども、離島活性化交付金は今年度全面施行された改正離島振興法を踏まえ、離島における地域活性化を推進し、定住の促進を図る取り組みを支援するために新たに創設されたものでございます。交流人口の拡大、定住促進を図るというのが目的でございます。

今議会において、交流人口の拡大を目的とする事業等に離島活性化交付金を活用する事業予算を提案いたしておりますが、交付金の対象となりますのは離島活性化交付金事業実施要綱第3条に規定されております産業の活性化及び離島への移住を推進するための定住促進事業、島の特性を生かし経済的、文化的諸活動を通じて離島と他地域との交流を図るための交流促進事業、災害を防除し災害が発生した場合において島民が孤立することを防止し、防災上必要な対策を推進するための安全・安心向上事業の3事業でございます。

現在、この活性化法についてはこのような3事業でございますから、使い勝手が悪いということで、この使い道をもっともっとふやしてくださいという拡大の要求をいたしておるところでございます。そのようなことで、この交付金につきましては、このような事情がございまして、県の御指導をいただきながら事業内容を十分検討する必要があると思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 鵜瀬議員。

○議員（15番 鵜瀬 和博君） 今の複式学級を抱える壱岐市の現状については、8月27日に県のほうからそういった単独で配置する場合は2分の1県が補助しますよというお話を今いただいております。今市長の御答弁では、県が出さなくても単独でしたいということをおっしゃったので、ぜひそれはお願いしたいと思いますが、実は教育長、第2期の長崎県教育振興基本計画の

中に、重点項目として離島等の過疎地域における教育の維持向上というところの中に、離島等の過疎地域における生徒数減少に伴う学校の小規模に対応するため、複式学級支援員や免許外教科担任の解消のため、非常勤講師の配置等の充実を図りますとか等々、その複式に関して県のほうも基本計画の中に入っているようですので、ぜひ市長も知事のほうには強く言っていただきたいという点をお願いします。

また、国においては実は衆参の決議の中に、学校は離島定住促進の条件として極めて重要な施設であることに鑑み、こうした教育施設の維持及び存続については国は可能な限り支援することと、今言われております。今、離島振興活性化交付金の中に今、市長が3点項目を言われました。その中の第4条の中に、原則として第6条に規定する離島活性化事業計画を作成する市町村の区域内で実施するもの、いわば壱岐市離島振興計画にのっとった部分については使っているよというふうに、私は解釈をしております。

その中で、特色ある学校づくり、個性を伸ばす教育を進め、老朽施設の改修、時代に対応した教育施設、施設の整備に努め、過疎化、少子化の中、教育効果を高めるための学校規模の適正化に努めると。その中にも、それが入るんじゃないかと、子供たちのために教育環境を変えるという部分、この振興計画の中に入っていますので、これも適用するんじゃないかということ、一応お話をしておきます。今現在、私たちの長崎3区の谷川代議員は今、文科省の副大臣であります。そういった部分で、壱岐市、離島の現状は十分御理解していただいていると思っておりますので、ぜひそういった内容についても市長はお話をいただければと。

最後、時間になりましたので、そういった支援員がふえたときに、せめて6年生の算数、国語だけでも分離して授業ができるような、空き教室を活用をしてできるような点についてもぜひ、教育長、県のほうと協議をしていただいてそういった対応ができるように、臨機応変の対応ができるように、この後、県、国に対して要望を出していただきたいと思っております。

もう時間が来ましたので、これで私の質問を終わりますが、やはりいろいろ考え方として、いろんな角度から考えればこの条例、法律についても活用ができます。そういった部分をぜひ知恵を出して考えていただいて、壱岐市振興のために市長のリーダーシップのもと発展させていただきたいということを期待しまして、私の質問を終わります。どうもありがとうございました。

〔鶴瀬 和博議員 一般質問席 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって、鶴瀬和博議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（町田 正一君） ここで暫時休憩をいたします。再開を11時5分といたします。

午前10時56分休憩

.....



午前11時05分再開

○議長（町田 正一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、7番、今西菊乃議員の登壇をお願いします。

〔今西 菊乃議員 一般質問席 登壇〕

○議員（7番 今西 菊乃君） ことしの夏は、もう大変な猛暑でございました。しかしながら、暑さ寒さも彼岸までとはよく申したもので、石田からここの議場まで来ます間に、勝本の赤土田の先に赤と白のマンジュシャゲがたくさん咲いておりました。本当にさわやかな季節になりました。

さて、先日の16日は敬老の日でございました。多くの高齢者の皆様がお祝いされたことと思っております。本市でも70歳以上が7,700人以上となっております。65歳以上は4人に1人が高齢者で、騎馬戦型と言われる3人に1人の高齢者地区となるのももう後わずかのことだと思います。高齢者が住みやすいまちづくりをいたしますと、市長は敬老会の御挨拶の中でおっしゃられていたと思います。今までにかつて経験したことのない超高齢社会への対策が急がれております。医療、保険、社会保障はもちろんのことですが、もっともっと私たちの身近な普段の日に生活の中に多少の不満を持っていらっしゃる高齢者が多く見られます。

私が、初めて議員に当選したときに、あなたは重箱の隅をつつくようなことを言ってほしい、そういうことに取り組んでほしいと、私に言われた方がいらっしゃいました。それが、あなたに求められるみんなの期待なんですよというふうに言われたんですね。そのときはまだ若かったですから、どういうことなのかちょっと理解ができかねるところもありましたが、10年たった今、ああ、こういうことだったんだなと思っております。一般的に言えば、小さな小さなことで、何このくらいのことというようなこともございますが、その立場になれば大変苦痛になっている、どこかで誰かにどうかしてほしいと、そういう悲痛な願いを持っている高齢者や障害を持った人が多数いらっしゃるということです。

通告いたしております3件にも、健常者にとっては何ともないことなんです。本当にこんなことというようなことなんです。1件目の道路の白線が薄くなったり消えたりしているということは、年をとりますと白内障とか緑内障が進んでまいりまして、非常に目が不自由になっている方が多うございます。その方たちも運動不足解消のために、ウォーキングをしたり日々の買い物に行ったりなさっているわけですね。そのときに、白線を目安に歩いていくということだったんです。これも、聞いてみないとわかりませんでした。白線を頼りにウォーキングをしていると、買い物にも行っていると。しかし、それがだんだんだんだん薄くなったり消えたりしているところがあると。

その目の病状が進んだということも考えられるんですが、そういうふうな生活をしている人にとっては、白線というものは本当に危険から身を守る命綱みたいなものだったんですね。道路ができた当初はきれいに白線が書いてあったわけですが、その後何の補修もされていないくて、とうとうウオーキングもやめて、買い物に行くのも回数を減らしているというお話があっておりました。

島内の全部の道路をそうしてくださいというのは、これはかなり無理があることだということとは十分承知いたしておりますが、せめて市街地近辺、市街地、町に住んである方がウオーキングされるというのは、30分程度くらいだと思うんですね。三、四十分、そこら辺の白線のやっぱりチェックはすべきではないかというふうに思います。

2件目が、舗装の段差ができていくということなんですね。特に、水道工事の後、皆さんおっしゃられるのは道路の工事をするとき、水道工事と一緒にできないものかと、せっかくきれいになっている舗装をまた切り割って水道工事をしていると。そういう無駄なことはしないでほしいというのがありますが、これは行政の縦割りでなかなかそうはいきません。県道を切り割って水道工事をなされているわけですが、工事が終わられたときはきれいに舗装ができていくんですね。でも、時間がたつとやっぱり段差ができていくわけです。

そこで困るのが、セニアカーではなくて、手押し車で歩いていらっしゃる方です。その手押し車に全体重をかけて、前かがみで歩いていかれるものですから、その段差がよくわからなかったり、道路の陥没しているところが見えにくかったりして、そこで手押し車が非常に安定性が悪い、セニアカーに比べれば安定性が悪いわけですね。その手押し車がひっくり返るものだから、自分も転んでけがをしたとか、骨折をしたとか、そういう目に遭ったという方がまあ聞いてみるといらっしゃるんですね。だから、舗装の段差、道路のでこぼこ陥没しているというところのやっぱり補修というのでも取り組んでほしいというお話がございました。

3件目も聞くまで全くわかりませんでした。私たちは、福岡のジェットフォイルの待合室に長時間腰かけることがないんです。時間ぎりぎりとか、長くても30分待つくらいで行くわけですがね。福岡の病院に通院なされている方、この方々は病院に予約していかれますので、12時過ぎくらいに診察が終わってこられるわけですね。体調が健常者のようにはありませんので、町をうろろろするとか、ショッピングをするとかいうことはもうきついなさらないわけです。そしたら、そのままその3時台のジェットフォイルで帰ろうと思って、あの待合所に帰ってこられるんですね。そしたら、2時間も2時間半もあのかたい椅子の上に腰かけていなければならない。横になることもできない。だから、あの椅子を何とかもう少しやわらかいものに変えてほしいというような要望がございました。

全部といったら清掃の関係で無理があるかもしれない。それなら、せめて優先席でもつくって

いただきたいというのが悲痛な願いでございました。これは、この3件は私が敬老会前に高齢者の井戸端会議の中でお聞きしたお話なのですが、この3件に対してはできますならば早急に解消するように取り組んでいただきたいというのも一つです。

しかし、今この方々のお話を聞いてみますと、こういったことをどこで、誰に、どのように言っているのかがわからないという後期高齢者の方々なんです。道路とか、そういう白線とか、身近なことは地区の自治公民館長さんあたりに言って、言ってもらえませんか、そうすれば伝わりますよというお話もしたんですが、自分の公民館の部内ではないとおっしゃるんですね。それがですね。だから、隣の公民館の地域である。もうわざわざ隣にまで言っていかれんと。だから、どこか、誰かこういう話を聞いてほしい、言う場所がほしいというのも一つの願いでございました。

この件に関して、市長はどのようにお考えかをお伺いいたします。

○議長（町田 正一君） 今西議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 7番、今西菊乃議員の御質問にお答えをいたします。

先日は石田の敬老会、大変お世話になって、まさに議員おっしゃるように高齢者の方に優しい行政をしたいということも申し上げたところでございます。高齢者が生活をしていく中で、不便さを感じながらも行政の要望が届けられない状況があるということでございまして、1番目に道路の白線が薄くなったり、消えたりしている。2番目に舗装の段差ができて、手押し車等が転倒して骨折をする恐れがある。3番目に福岡のジェットfoil待合室の椅子がかたくて、長時間腰かけて待ってられない。病人や障害者向けの対策が必要だということでございます。

道路の区画線についてでございますけれども、御指摘のとおり市道の中心線や路側線が薄くなったり、消失している箇所が見受けられます。補修につきましては、随時整備を進めておりますが、市道延長が1,336キロでございます。国道、県道を含めると、1,400キロを超えるわけでございますけれども、このような中で今年度は1、2級路線を中心に約65キロの区画線を整備する予定といたしております。

また、舗装の段差につきましても、これにつきましてはやはり地元の方々からの御連絡がどうしても必要になりますので、地元から御連絡があった場合、現地を確認して随時補修を行っておりますけれども、区画線同様舗装補修についても100%補修ができていないところでございます。今後は、そういったこともございまして、市といたしましては道路を改良とか新設をすることよりも、私はこの維持補修に予算を割きたいと思っておりますのでございます。

参考でございますけれども、1級の市道が148キロ、2級市道が146キロ、その他の市道が1,042キロということで、1,336キロということでございます。この中で、参考のため

に申し上げますけれども、平成24年度の道路の維持費の決算が1億2,850万円程度でございます。25年度の現在予算額でございますけれども、2億6,800万円程度を予算計上いたしております。この中で1億円程度、1億4,000万円ですか、ふえておりますけれども、やはりそれだけ道路の維持等々について非常に予算がかかっているという状況でございます。

しかしながら、やはり高齢者の方が、先ほど議員おっしゃいますように白線が頼りだと、あるいは舗装の段差によって転倒するといったことは、これはやっぱり未然に防がなければならないことございまして、精いっぱいこの予算の中で維持補修について努力をしていきたいと思っております。

次に、福岡のジェットfoil待合室の椅子の問題でございますけれども、高齢者への細やかな対応といたしましては、福岡のターミナルに限っていいますと、福岡市の第2ターミナル、壱岐対馬五島航路でございますけれども、エレベーターを高齢者や障害者が利用しやすい場所に設置いただくように要望しておりましたところ、このたびターミナルビル西側に完成をいたしております。

また、長年の願いでありました博多港博多ふ頭地区壱岐・対馬ボーディングブリッジ下船口から、バス乗り場等までの利用車動線におけるシェルター雨よけ施設設置につきましても、福岡市においてこのたび予算化されまして、現時点での情報によりますと12月に着工、そして今年度中に完成という予定をお聞きいたしております。

さて、福岡市のベイサイドプレイスのジェットfoil待合室には、現在6人がけの椅子が6列、4人がけの椅子が6列設置されております。利用客は乗船する前はその椅子に腰かけて待つ方がおられます。しかしながら、議員おっしゃるように椅子はかたく、特に病気の方々や障害者の方々にはつらい思いをされていると察するところでございます。唐津フェリーターミナルにおいては、畳の待合室がございまして、この問題が解消しているのではなかろうかと思っております。

また、福岡はやはり御病気の方が通院で行かれるという一つの事情もございまして、診察が終わればやはり早くターミナルに来られて長時間待たれるという状況もあるかと思うわけでございます。この待合室は、株式会社ベイサイドプレイス博多が管理しておりまして、福岡市営渡船の博多・志賀島航路、玄界島・博多航路、安田産業汽船株式会社の博多・海の中道航路、ベイクルーズ福岡の那珂川水上バス、博多湾クルージング「マリエラ」、そして九州郵船ジェットfoilのお客様が利用されております。

このベイサイドプレイスは、旅客ターミナルと一体化した複合商業施設であります。観光スポットとして有名なところで、多くの方が利用されております。市といたしましては、これらの航路事業者等の意見を聞きながら、株式会社ベイサイドプレイス博多に対し、病人の方と障害者の

方への配慮について働きかけてまいりたいと思っております。

今西議員は壱岐の施設については申されませんでしたけれども、壱岐の施設はやはりもう船の出発時刻がわかっていますから、間近に来られてそういう問題がないのかなと思っておりますけれども、ちょっと調べてみました。郷ノ浦港については全部がかたい椅子でございます。芦辺のジェットフォイルもかたい椅子でございます。石田と芦辺のフェリーターミナルについては、やわらかい椅子があると、こういう状況でございます。これらにつきましても、このままでいいのかというようなことについて検討してまいりたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 今西議員。

○議員（7番 今西 菊乃君） 道路の白線の問題とか段差の問題については、やっぱり地元公民館あたりで要望するとできるんですけど、高齢者の方はなかなか言うていくことができないわけですね。隣の公民館のことだから、隣の館長さんには言われんっていうのが現状なんです。だから、どこかでこういう意見を聞いてくれるところがほしいというのが、そもそもの要望でございました。

6月の定例議会で、高齢者関係で質問をいたしましたときに、ちょボラ、ちょこっとボランティアあたりを導入してはどうですかというふうなことを申しておりました。そういうのに関連しても住みやすい高齢者向けの対策、対応というのが必要ではないかと思えます。本来ならば、こういった意見は私たち議員がちゃんとお伺いをして、申し立てるのも一つの方法かと思えます。

旧町時代は大勢の議員がおりました。合併当初62名でしたし、その前はまだ多くの議員さんがいらっしゃいました。しかし、現在は全部では16名というふうに非常に少なくなっております。石田もわずか2名になっております。ほかの町もそうだと思います。

以前は、二つ三つの公民館で一人の議員さんがいらしたような状態だったと思えます。だから、お話しやすかったんだと思えます。要望も言いやすかったんだと思えますね。しかし、やっぱりこう激減いたしますと、そういう弱者の声というのが非常に届きにくい状況になっているんだということを痛感いたします。私たちもよく言われます。選挙のときばかりきちかねてはこんもんなど。議員もなかなか減りますと、活動範囲が広範囲になりますから今までのようにはいかないところもあるんですね。だから、削減だけがいいことかどうかというのは考えなければならぬことではございますが、経費のことを考えるとやむを得ない状況にあると思えます。

そうした意見を吸い上げるほかの方法をやっぱりとっていかなければ、あわせてとってやっぱりいくべきだと思うわけですね。特に弱者、高齢者あたりへの対応というものをもう少し考えて取り組んでいかなければならないのではないかと思っております。まず、市長にそのところをどう思っているのかと。

続きまして、そのジェットフォイルの待合所の問題ですが、あそこは言われるとおり私も九州郵船さんにこういうお話がありましたので、早速お話をいたしました。全部が無理なら、せめて優先席でもつくってくれるように頼んでくれないかというふうにお話をいたしました。しかし、ほかのところからの要望はないとですねというようなお話だったんですね。もちろんあそこは、あそこにそんなに長時間腰かけるのは壱岐の人しかいません。対馬からの通院の方はどうしてもきつければ飛行機を使われていると思うんですね。壱岐から行く人だけが長時間待っている状況にあると思うんです。だから、要望はうちからだけしか出ないと思いますよと、だからそのところをどうか九電工さんが思うというようなお話がございましたので、そのところを話していただきたいというふうに一応伝えております。だから、市からもそのところを強く要望をしていただきたいと思うんですね。全部が全部変えろというのではありません。せめて優先席なりともつくっていただきたいという、この状況をちゃんと説明して要望を申し込みたいと思っております。

この2件に関しまして、市長の御意見をお伺いいたします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 今西議員の追加質問でございますけれども、市に対する要望がなかなか届けにくいと、高齢者がですね。そういったことにつきましては、やはり行政というのはどうしても文書処理というのがてんまつまで書くものですから、文書処理というのをやるということで、公民館長さんなどからやはり申請をいただきたいという気持ちがございます。

しかしながら、今おっしゃいますように、ある意味自分たちのところを要求をしているような引っ込んだ気持ちを持たれる方もいらっしゃるかもしれません。どういうふうにして、それをそんなお年寄りの御意見を聞けるのか、少し研究をさせていただきたいと思っております。

それから、福岡のジェットフォイル待合の問題でございますけれども、今、例えばジェットフォイルなどは指定席はどうなんだというような議論もしておるところでございますけれども、これにつきましてはなかなか結論が出ません。特に、郷ノ浦港のジェットフォイルはその潮の満ち引きの関係で、上からおりるときとか、下からおりるときとあるわけですから、必ずしも指定席で乗り降りがうまくいかないこともあるということでございます。しかしながら、今お話を聞いておまして、やはり優先席といったようなものを確保できないか、そういったことについても九州郵船のほうに、航路対策協議会などを通じて打診をしていきたいと思うところであります。

椅子につきましても、何とかさつき申しました会社のほうに言いたいと思えますし、福岡市にもやはり働きかけ、建物そのものは市の所有であると思っておりますので、市に働きかけてみた

いと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 今西議員。

○議員（7番 今西 菊乃君） 高齢者のことでございますので、早急をお願いをいたしたいと思っております。

これでこの質問は終わらせていただきます。

次に、子育て環境整備ということで質問いたします。

本市では、子育て支援に関してはいろいろな取り組みが行われています。

検討委員会を設立して子育て環境に取り組んでいるが、放課後児童クラブ、幼稚園保育所と重なったときの料金は、若い家族の家計を占める割合が大きい。今後の幼保のあり方について料金に対して不安があるが、検討委員会の方向性はどのようになっているのかというような通告になっております。通告いたしておりましたので、このことに対しての答弁だけはいただきたいと思っております。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 今西議員の2番目の質問でございまして、子育て環境整備について、検討委員会を設立し子育て環境整備に取り組んでいるが、放課後児童クラブ、幼稚園、保育園と重なったときの料金は若い世代の家計を占める割合が大きい、今後の幼保のあり方について、料金に対して不安がある。検討委員会の方向性はどのようになっているかという御質問でございます。

昨年11月に、壱岐市幼保連携子育て支援検討委員会を設置をいたしまして、現在まで7回の検討会議を開催をいたしております。検討の内容につきましては、市内の幼稚園、認可保育所、僻地保育所のあり方や、民間の認可外保育施設等々のあり方、新しい子ども子育て支援法に対応すべく、子ども子育て支援事業計画基本調査、ニーズの調査でございますが、その調査表の内容検討や認定こども園の新設等について論議をいただいている最中でございます。

今後、国から示されているスケジュールに沿って、まず市内の未就学児等を対象としたニーズ調査を実施し、利用状況及び利用希望状況の量の見込み等を調査いたしまして。平成26年9月ごろ、来年の9月ごろをめどに子ども子育て支援事業計画を作成する予定となっております。また、料金につきましては平成26年4月ごろ国のほうから、目安の価格、公定価格が骨格が提示をなされる予定となっておりますので、その後議会及び検討委員会から移行する子ども子育て会議等の御意見を賜りながら、検討させていただく予定でございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 今西議員。

○議員（7番 今西 菊乃君） ちょっと済みません。私の不手際でございまして、申しわけなく思っておりますが、本当はどういうことが聞きたかったかと申しますと、今、保育所、幼稚園のあり方について検討会議が進んでいる状況にあると思います。その中で、その幼保一元ということ視野に入れて検討がなされているのかと思いますが、壱岐の場合、今の現状でいいますと今の保育所、幼稚園の体制でほぼ十分だと思うんですね。

しかし、今から先ずっとこれが続いていくわけではございませんので、ここにメスを入れなければならぬと思っているわけです。検討委員会でもいろいろ検討をされていることと思います。立ち上がって半年くらいになりますかね。その中で、どういった方向性で進んでいるのかということもございまして、できれば幼保一元ということができるところからやったらどうかということをお願いしたかったわけでございます。

経費削減とか、子供の教育とか育児とかいろいろ考えまして、今石田の保育園、幼稚園がございまして。小学校のプールとかもあります。だから、そこを基準として幼保一元化というものに取り組んでみてはどうかということをお願いしたかったわけです。そうしないと、だんだんこの施設も老朽化をしまわります。国の方針が定まらないので、なかなか市長も方向性を決めることができないでいらっしゃると思うんですが、まずモデル的にできるところからやってみてはどうかということが言いたかったわけです。

石田の場合は、石田保育園と石田幼稚園が近くにありますが、下にテニスコートがあるんですね。前はあそこに手がつけられないということだったんですが、もうできるようになっているんじゃないかと思っておりますので、あのテニスコートと今の保育所を一体化として幼保一元に取り組んでみてはどうかということが言いたかったわけです。そうしないと、なかなかこの幼稚園、保育園の問題はどこも施設が老朽化していきますし、今のままずっと少ないところをそのまま継続していくということも難しいと思っておりますので、できるところからモデルというわけではありませんが、石田が一番やりやすいんじゃないかと思うわけですね。だから、あのテニスコートは今の幼稚園の跡にでも持っていけないことはないと思うんですね。それで、モデル的と言ったら言葉は悪いですけど、これからの取り組みとしてまずそこからやってみてはいかがかなという質問が本当はしたかったわけです。申しわけございません。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 今、検討委員会ですさまざまな検討が行われておるところでございます。今、今西議員におかれましては石田が幼保連携を、模範的にやってはどうかということでございます。今、検討委員会の中身については詳しくは存じておりませんが、やはり僻地保育所の問題、集約の問題、そして幼稚園と保育所の形態等の融合等々について、非常に議論を深めて



いただいておりますものと思っております。

そういった中で、幼保連携のまず幼稚園、保育所を一体化するという中で、園舎をそのままにして使う場合は、150メートル以内でなければいけないという条件がございます。135メートル、済みませんでした。135メートルというのでございまして、石田町がぎりぎりかなと思っておる次第であります。そういった意味では、他の幼保連携が園舎を別棟にしてやれる場所がございます。そういった意味では、石田は一つのモデル的にやれるのかなと。これは、決定ではございません。今お聞きをして、率直に私が感じておることを申し上げております。そういったことで、何回も言いますけど135メートルしか離れていないのは石田しかないということも事実でございますし、その可能性は非常に大きいと。ただ、検討委員会の答申が出ないうちにこうですよということも言えません。そういう条件にあるということ、私が認識しておることにとどめさせていただきたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 今西議員。

○議員（7番 今西 菊乃君） 検討委員会の結果が出るまでは、市長もどうこうということはおっしゃられないと思います。そのための検討委員会を立ち上げていらっしゃるのだからですね。しかし、その検討委員会の委員さんの中のお話を聞いてみますと、なかなか進まないというような状況を聞くわけですね。だから、まずモデル的にでも日本国中幼保一元のところはあるわけですから、どこもみんな一緒にというわけにはいかないですね。だから、やれるところからまずやってみてはどうかという意見もあるものですから、そのことをちょっとお伺いをしたわけです。検討委員さん方の御意見、結果報告も今年度中にはあろうかと思いますが、今後の保育の取り組み方については幼保一元というものも視野に入れてやれるところからやっていただきたいという思いで質問をするつもりだったんですが、ちょっと不手際で申しわけございません。

以上で私の質問を終わります。

〔今西 菊乃議員 一般質問席 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって、今西菊乃議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（町田 正一君） ここで暫時休憩をいたします。再開を13時といたします。

午前11時50分休憩

.....

午後1時00分再開

○議長（町田 正一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、1番、赤木貴尚議員の登壇をお願いします。

〔赤木 貴尚議員 一般質問席 登壇〕

○議員（1番 赤木 貴尚君） 1番、赤木貴尚が通告に従い、市長に対して一般質問を行います。

7月20日に当選証書をいただき、間もなく2カ月、多くの方々に支えられ、先輩議員の方々、議会事務局の御指導もあり、今ここに立たさせていただいております。一つ一つのことが初めてで緊張の連続ですが、この初心を忘れないで、壱岐市の一人として、また市民の代表として壱岐の島のために頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

質問は、主に9月会議においての市長の行政報告の内容から考えております。市民や私の素朴な疑問を中心に行いたいと思います。新米議員の初の一般質問、欲張りすぎまして質問事項、質問要旨、全てで9つと盛りだくさんになってしまいました。時間が50分しかありませんので、市長の簡潔で建設的な答弁をお願いいたします。

まず、先輩議員のアドバイスもありまして、効率よく質問するために通告書の質問の順番を若干入れかえさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長（町田 正一君） 結構です。

○議員（1番 赤木 貴尚君） まず、1つ目の質問は通告書の④、地域おこし協力隊についての質問です。

平成25年5月12日採用の合口香菜さんをはじめ、徳永満智子さん、堀田九三男さん、二宮レイ子さん、4名の皆さんに地域おこし協力隊として3年間活動していただくということとなっております。この方たちに、具体的な成果と結果を3年間でどのように求めていくのかということ、まず最初に市長の見解を聞きたいと思いますのでよろしくお願い致します。今回の質問は一つ一つ御答弁をいただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

○議長（町田 正一君） 赤木議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 1番、赤木貴尚議員の質問にお答えいたします。

初めての対面でございます、私も緊張いたしておるところでございます。地域おこし協力隊について、4名に3年間で具体的にどのような成果、結果を求めているのかということでございます。

地域おこし協力隊につきましては、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら地域力の維持、強化を図ることを目的に創設された総務省の制度でございます。地域づくりに意欲的な隊員を4名募集し、本市観光情報の発信、地産地消の推進、地域特産品のPR、新規開発、商品デザインの支援、また農林水産業の応援や海女の後継者育成などの地域協力活動に従事

してもらうことで、地域の振興を図ることを目的に、3年間にわたる活動を予定をいたしております。

行政報告で申しましたとおり、海女さん後継者として合口さん、観光振興情報発信担当として徳永さん、物産振興・特産品開発担当として二宮さん、雑穀・古代米ブランド化支援担当として堀田さんと4業務、4名の隊員が全て決定し、着任いただいたところであります。

それぞれのミッション、大きい項目だけ申し上げます。観光振興、情報発信担当徳永さんには、地域資源の調査、地元では注目されてこなかった資源などにも目を向けること。旅行商品の企画立案、ホームページ、SNS活用による情報発信でございます。

物産振興・商品開発担当二宮さんには、地域の食資源調査、新商品開発、既存商品のリニューアル、Web販路開拓通販、SNS活用などによる情報発信でございます。

海女さん後継者合口さんには、海女の見習い、海女等の情報発信、漁協直売所の支援、イベント企画、運営をお願いいたしております。

4番目の雑穀・古代米、原の辻ブランド化支援担当の堀田さんには、雑穀・古代米の調査、情報発信、雑穀・古代米の加工品やイベント企画、特産品開発関連ツールの製作をお願いしております。

今後、本市の現況、課題を把握しながら、埋もれた魅力、資源を掘り起こし、専門知識や外部ネットワーク等を生かしながら、これまでに培ってこられた経験を十分発揮され、現在観光連盟が主体となって取り組んでおります長崎県がんばらんば事業の壱岐島ごっとり市場の各事業への支援など、連携しながらそれぞれの担当業務を行っていただきたいと思います。そして、これらの活動の中で定住定着につながる起業、または生業づくりを築かれ、3年後には地域おこし協力隊の皆さんがこの壱岐の島に移住定住され、引き続き地域活性化に奮闘していただけることを期待しているところであります。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。

○議員（1番 赤木 貴尚君） 3年後に定住定着という言葉が幾つか出てきましたが、やはりこの人口減少の中、定住定着していただいてこの壱岐の島のために一生懸命働いていただくことが大切なことだと思います。

この4名の皆様には、官民協働のかけ橋となっていただくためにも、行政は何をすべきかという、やはり明確な作業指示や目標設定、役割を具体化してあげて、働きやすい環境づくりをしてあげることが大切だと思います。この地域おこし協力隊も、もうほかの自治体でも多くの方が取り組まれている中の結果報告の中に、野放しではいけないと、「どうぞそのままやってくださいよ、好きなようにやってくださいよ」では、本人たちもやりたいことがあっても、それをやれ

る環境がない限りはせっかく今まで一生懸命やってこられた実績も通用しない状況があるみたいですので、その点を行政側はしっかり働きやすい環境づくりというのをつくってあげたほうがいいのではないかなと思います。

それでは、次の質問にいきたいと思います。

2つ目の質問、壱岐市のインターネットの活用についてということで質問したいと思います。

壱岐市におけるインターネットの活用は、ホームページ、市長ブログ、市長フェイスブックというこの3つを主に活用されている状況ですが、そのほかにもSNS、先ほどの市長のお言葉の中にも地域おこし協力隊の活動の中にSNSという言葉がありましたが、このSNSということを活用してはどうかと思うことで、ちょっと一つボードを用意していますので、SNSということに関してほかに何があるかという、ここに書いていますけどソーシャルネットワーキングサービスと、人と人のつながりを促進、サポートしていくコミュニティ型のウェブサイト、ちょっとやけにカタカナが多いんですけども、要はインターネットを使って人と人をつなげるということですね。

わかりやすくというか、インターネットの回覧板みたいな形で、知りたい情報がわかりやすくインターネットをしている人がわかるという、こういうソーシャルネットワークサービスというのが今、日本の中で、私がいう中ではこのツイッターとフェイスブックとラインというのがあるんですけど、これはちょっとまたソーシャルネットワークとしてはちょっと違うジャンルになるんですけど、私がやっている、または壱岐市島民の中で若者がやっているのはこの多くの3つになっております。

このSNSというのをぜひ活用していただいて、この壱岐の情報発信をしていただきたいと思うのが私の今回の質問ですが、まずこのSNS、現在武雄市、佐賀県の武雄市が積極的にフェイスブックというのを活用されています。これは、フェイスブックというのは「いいね」というボタンがありまして、その「いいね」というのを押した人というのの数が一つ見ている人というか、それを使っている人の一つのバロメーターなんですけど、これ一応5万人という数字が出ています。いいねというのを押した以外の人でただ見ただけという数字が、インターネット上などで確実な数字ではないですけど、48億人とか書かれている状況が今の現在のところですよ。

私も、今回議会の広報委員長として、広報委員会が今度視察研修に武雄市に行ってまいります。その中で、やっぱりしっかりと議会も情報発信をしていかなければいけないということで、このフェイスブックをぜひ活用していきたいなと思っておりますが、まずやってほしいことはこのフェイスブックということで、市長のフェイスブックもありますが、壱岐市のフェイスブックページというホームページとは違う、壱岐市を宣伝するフェイスブックの中のページというのをぜひやっていただきたいと思うんですけど、このことについて現在取り組まれていないということなの

で、ぜひ取り組んでいただきたい。そのことについての御答弁をお願いします。（発言する者あり）全部一括質問。今回の質問に関しては、SNS、フェイスブックページを壱岐市で取り組んでほしいということを7番の大きな意味です。

○議長（町田 正一君） 赤木議員、インターネット活用についてはその部分だけの質問でいいわけですね。

○議員（1番 赤木 貴尚君） そうです。はい。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 壱岐市のインターネット活用についてということで、SNSについてのみのようでございますけど、この場合、SNSをやりますよとかやりませんよとかいうことは言及いたしません。

どうということかと申しますと、現在の情報の手段についてはさまざまなシステムが構築をされているところであります。それぞれの世界中で多くの方が利用されております。情報発信における効果は、これまでテレビ等で壱岐市が取り上げていただいたときの反響など、その大きさを改めて実感をいたしております。議員お話のとおり、ツイッターやラインなどさまざまな情報手段が確立されておりますけれども、これらはいろいろツールによって、例えばラインなどは災害時がいいとかございます。その中で、今壱岐市は市のホームページ、壱岐市長としてのブログ及びフェイスブックに情報の発信を行うとともに、ただいま申し上げました各テレビ、ラジオ、壱岐市を取り上げていただくような推進をしておるところでございます。

自治体のソーシャルメディアの活用状況につきましては、今武雄市のことを申されましたけれども、ソーシャルメディアの活用状況のアンケート調査が実施された結果、1,742自治体のうちの921の地方自治体からの回答結果が、公表されております。ツイッターを活用しているというのが24.2%、フェイスブックを活用しているが15.2%、ユーチューブが14.9%、いずれも活用していないが62.5%ということでございまして、まだまだ自治体によりましてこうしたソーシャルメディアの活用については低い状況にあると思っておるところでございます。私なりに、これらのことについて理解をいたしておりますけれども、議員お話のSNS等情報手段でございますけれども、私はこうしたあらゆる情報手段に取り組むのではなくて、あれもこれもではなく、今行っている市のホームページ、ブログ、フェイスブックをさらに充実した形で取り組んでいきたいと考えておるところでございます。

今、武雄のことをおっしゃいましたけれども、人口5万人の武雄市はSNSを利用した情報発信先進地でございますが、広報担当としてフェイスブック・シティ課に9名の職員が張りついておるといふ現状でございます。

壱岐市におきましては、総務の広報担当が一人でこの今申しました3つの情報発信ツールを使いまして、必要に応じて更新いたしております。これは、情報の発信もとを集中管理して正確な情報を公平にお伝えするためでございます。やはり行政というのは、個人の情報発信とは違いまして、その情報の管理については責任の重大さ、それを十分認識しなければいけないと強く思っております。誤った情報が発信されることになって、時には大きな混乱を招き、そして大きな損失を生むこともございます。

また、情報弱者、高齢者、障害者等、携帯、パソコンを利用できない方、情報弱者でございますけれども、この方々への対策も合わせて研究していく必要があると考えておるところでございます。

今、現時点で壱岐市といたしましては、このことを十分認識し情報の発信、情報の管理に努めてまいり所存でございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。

○議員（1番 赤木 貴尚君） まず、私が一番最初に質問した地域おこし協力隊の徳永さんの役目は情報発信なんですよ。その中に、SNS、フェイスブックと市長何回も御答弁されたのにこの行政においては情報発信はSNSではまだできないと。人材が足りないという私は今、というふう捉えたんですが、ぜひこの方たちを生かして、この方たちに情報発信をしていただければ、人材はそこに補えているのではないかなと思います。データというか、いろんなデータがあるんですよ。実際今おっしゃられたツイッター、フェイスブックはそれほど使われていないという状況もそれはそのデータとしてあるんですが、実際もう既に日々フェイスブックやライン、ツイッターというのはどんどんどんどんふえていく状況ではあるですね、わかりやすくいえば。

ましてや、このフェイスブックとかラインとかは、スマートフォンという今皆さん携帯電話でいうと、折りたたみ携帯と、一つになった携帯とあるんです。このスマートフォンに関してできる情報発信なんですが、これも既にもう携帯電話を持っている人の半分はスマートフォンになっている状況なんですよ。

ましては、その情報を発信するためのスマートフォンが携帯を持っている人の半分になっているのと、しかもこの壱岐の島においてはフリースポットという、いわゆる無線、線が要らなくてインターネットがつながられる状況というのは、もう既に全国に自治体の中で第2位になってますよね。佐渡島の次に。今度もういつか1位になろうとして一生懸命努力している民間の方がおられるんですが、もう1位になりますよ。この1位になったときに、情報発信ができる環境があるのに情報発信をしていない自治体というのは、ちょっとバランスがとれていないように感じるんですよ。

私、一つ思うんですけど、市長がこの前からインバンウンド、インバウンドって言って、外国人誘致している、積極的にしています。外灘画報の取材も来ていますけども、この外国人が使っているはこのSNSなんですよ。インバウンドで外国人客を呼ぼうとしているのに、SNSの発信元で壱岐市の情報を知れなければ、外国人は来たくても壱岐の情報は知り得ないですよ。

私が思うには、今度新しく予算で観光パンフレットの予算がついていますが、このフェイスブックページをつくるのはお金はかからないんですね。無料なんです。対馬市においては、既に英語のフェイスブックページがあるんですよ。じゃあ、これどうやってやったのかって調べたら、地元の、対馬のALTの協力で英語のページを作成した。これ作成したの誰が提案したかという、対馬でいう島おこし協力隊です。壱岐でいう地域おこし協力隊の発案でやられているんですよ。これ、ずっと考えていくとくるっと一周しましたよね。つながっているんですよ。

だから、一番最初に質問させていただいたのは、地域おこし協力隊についてなんですよ。この地域おこし協力隊、せっかく採用されたのにいわゆる明確な作業目標設定をしてあげないといけないということを、今さっき私も言いましたけども、ぜひこの方たちを使って人員不足を補って、壱岐の発信をもっと積極的に、あすにでもフェイスブックページをぜひつくっていただきたいというのが、一つの希望ですけども、このことについての答弁をお願いします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 今おっしゃいますように、地域おこし協力隊の方々はそのそれぞれの立場でSNSをぜひ利用していただきたいと思っているわけです。そういう中で、先ほど冒頭ちょっと私もSNSのことについて非常に否定的なことを申し上げましたけれども、今の段階で壱岐市として、行政全体としてやるつもりはないということで御理解いただきたいと思っています。

今、赤木議員が提案のようにそのSNSについて、私も勉強いたしまして、地域おこし協力隊2名の方に先ほど申しました。そういったことの中で、お互い私も勉強させていただきますし、うちの広報担当にもそういった情報発信の技術といいますか、そういったもの、そしてまた今の一人ではとてもやれないということもございます。今のことにつきましては、御提案として受け取らせていただきたいと思っています。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。

○議員（1番 赤木 貴尚君） この情報発信の今、ちょっと最先端でいうと私も調べただけなんです詳しくは説明できないんですが、自治体クラウドというもう既に言葉がありまして、これは防災、観光、医療、これを全て情報発信しているいわゆるインターネットのシステムもございまして、ぜひもう既に最先端なことばかりを言っていてもしようがないでしょうけども、壱岐市も

ぜひそういうのに取り組んでいただいて、情報発信をしていただきたいなと思っております。

次の質問にいきたいと思います。

3つ目の質問、②の全国離島交流中学生野球大会についてで質問をさせていただきます。

8月に行われました全国離島交流中学生野球大会、見事に壱岐市選抜が優勝しました。優勝したおめでたいことの影には、どうしても大会の内容、場所とか時間とか対戦相手の情報が市民に対してわかりにくかったということが一つあるのではないかなと思います。

私も、実際に活動の中で一般市民の方から、どこで何の試合があるのかということを知られたときに、勉強不足だったのもありますがちょっと答えることができなかった状況があります。来年は、国体も行われますので、今後壱岐の島内で行われるイベントの詳細、情報、これもまた情報伝達、情報発信というのが、言葉が出てきますが、そういう点でどういうふうな工夫をされて、島民に国体等の今後のイベント情報を伝えていくのかというのを、ひとつ市長に御見解をお願いしたい、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 赤木議員の全国離島交流中学生野球大会、それを踏まえて来年の国体ということでございます。

全国離島交流中学生野球大会の開催にあたりましては、皆様の御支援、御協力によりまして盛会裏に終了いたしました。お礼を申し上げます。議員御指摘の本大会の周知につきましては、まず市報8月号へのトップ記事の掲載、大会チラシの回覧、長崎県庁での記者発表及び各メディアへの情報提供、ケーブルテレビの放送、防災無線での放送、市のホームページの掲載などによりまして、市民の皆様をはじめ全国に情報発信をしたところでございます。

大会の内容等が情報がわかりにくかったという部分については、反省点として真摯に受けとめて今後に生かしていきたいと思いますが、こうしたらよかったんだという御意見がございましたら、議員の御提案等をお願いしたと思っております。

特に、来年開催の長崎がんばらんば国体壱岐市実行委員会の情報伝達につきましては、これまで次のような方法で実施してまいりました。

国体のポスターの掲示、開催横断幕、タペストリー、これは布製のポスターでございますけども、その設置を港、空港、各庁舎、マスコットキャラクターがんば君によるPR活動、がんばらんばダンス、がんばらんば体操のインストラクターによる指導、普及活動、情報誌壱岐がんばらんばプレス発行、これは全世帯に現在まで2回配布をいたしております。

市の広報誌であります「広報いき」への情報掲載、壱岐市国体ホームページの開設、情報提供、カウントダウンボードの設置、交通規制のお願いチラシの全戸配布、新聞折込、看板設置、県推



奨花の育成ボランティア募集、苗配布、プランター設置、これは小中学校、市民にお願いしております。各県応援のぼり旗作成・設置、歓迎のぼり旗設置、港、空港、競技会場でございます。大会PRグッズの作成、配布、ポケットティッシュ、クリアファイルなどがございます。

壱岐市ケーブルテレビの出演、国体応援ポスター、標語コンクールの実施、これは小中学校でございます。大会運営ボランティアの募集、現在29人のボランティアが応募していただいております。島内新聞への情報提供、インターネットライブ中継、競技実況及び壱岐市の情報発信などがございます。さらに、今後これらに追加をいたしまして、主要道路、商店街へ歓迎バナー、つり下げ旗でございますけれども、や歓迎札の掲示などを予定いたしております、御提案の分も含め啓発に取り組んでまいります。

離島甲子園参加チーム等の歓迎行動につきましては、大会会場をはじめ、市内各港や空港及び宿泊施設へのぼり旗の設置をいたしましたほか、各港にそれぞれに到着するチームの皆さんを市職員、市観光連盟及び宿泊施設などの関係者によりまして、横断幕やのぼりなどを持ってお出迎えし、お帰りのさいも同様に各港において紙テープを準備するなど、離島らしさも出しながらお見送りしたところでございます。

また、市観光連盟のお力をかりて、チームが宿泊する施設でもチームの皆さんへの一層のおもてなしを心がけていただきました。大会終了後ではありますが、参加されたチームの方などから、スタッフの対応、宿泊施設の方の対応等への感謝のお言葉をいただいたことは、関係者の気持ちが届いたものとうれしく思っておりますし、関係者の皆様のおもてなしの心に改めて感謝を申し上げます。

しかしながら、壱岐島内全体の歓迎ムードがいま一つ足りなかったという感じられたことは反省すべきであると思っております。市民皆様への情報の周知の方法など十分検討いたしまして、今後のイベント等の開催に活かしていきたいと考えておるところでございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。

○議員（1番 赤木 貴尚君） 先ほど市長にどのようなことをしたらいいかと、アイデアを出してくださいということで受けとめました、これはフェイスブックページをつくっていただくことではないかなと思っております。なぜならば、ホームページというのは取材をしました。それを、一遍市役所に持ってかえって、そこからデータを打って、写真を入れたりとかして、タイムロスというか、時間がかかるんですね。

じゃあ、フェイスブックページ、フェイスブックというのはどうかというと、その場ですぐ対応できる。情報発信ができるんです。何対何でどこが勝ちましたというのはすぐそこで対応できるんですね。だから、そういう今私が言っているのがインターネットだけに突出していますの

で、じゃあインターネットができない人にはどうやって知らせるんでというところにもなるんですが、まず私が進めたいところはそこであるということの一つアイデアとして伝えたいと思います。

そして、歓迎ムードが足りなかったというのは、市長のお言葉をいただきましたが、市民は歓迎しなかったと思うんですよね。でも、歓迎したくても情報が伝わっていないから歓迎できないんじゃないかなと、僕は一つ思いました。

じゃあ、どうやって情報を発信するのかというと、昔ですね、ちょっと一つ、昔ですね、こういうふうに修学旅行とかが来ると歓迎の赤い張り紙をよく見かけました。旅館とか商店、うちなんかもこういうのを張ってくださいって言って張ってきました。修学旅行は、何日から何日に来ていますよというのを張ってあるんですよね。これは、インターネットも何もない、本当のアナログな張り紙なんです。

じゃあ、これで何がわかるのか、まず来ている団体名と日付がわかるんですよ。ここさえわかることによって、どこであるかというのは、その後は一般市民が探していくところなんですけども、この最低限の情報だけでもどこかに張ってあることによって、まず一つに来られた方が、わあ、自分たちは歓迎されているんだなというのが一つわかる。そして、島民も何月何日から何かありよるねというのもこれでわかる。これ昔あったんですけどね、いつからかなくなってしまったという、これじゃあ僕がどこでどうやっていたのか調べようにもなくて、今回自分でつくってきました。こういう、一つアナログ的な一般市民もわかりやすい。そして、来る方たちも歓迎ムードをすごくしてくださっているなという、こういう取り組みのぜひ国体前に、国体に向けてやっていただければいいかなという、一つアイデアを御提案したいと思います。

それでは、次の質問に行きたいと思います。

○議長（町田 正一君） 赤木議員いいですか、それについて市長の答弁は。

○議員（1番 赤木 貴尚君） じゃあ、市長答弁よろしくお願いします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 本当に具体的な御提案ありがとうございました。今のことにつきましても、十分効果のある御提案だと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議員（1番 赤木 貴尚君） よろしくお願いたします。議長、それでは次の質問に移ります。

4つ目の質問、長崎しおかぜ総文祭、先ほども鵜瀬議員のほうから御質問がありましたので、ちょっと簡潔に質問させていただきたいと思います。

すばらしい取り組みということで、一つそういう表現にさせていただきますが、商業高校生た

ちも市長を表敬訪問されて結果報告をされました。その中で、私は今回のこの受賞は単なる発表ではなくて、提案としてこの壱岐市は捉えていただきたいなと思います。市長もブログの中で、このすばらしい提案書を今後の島づくりの中に活かしていきますと、コメントしてあります。これは、子供たちにひとつ夢を与えていますね。まとめの言葉の中にもこれは私たちの夢である、こういうふうに島が活性化されてにぎわうのは夢であるという言葉を書いていますけども、私はやっぱりこの夢をかなえてあげるのは大人の役目だと。この島の中におけるトップ壱岐市長がぜひこの夢をかなえてあげてはどうかと思いますが、このことについて御答弁をお願いします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 長崎しおかぜ総文祭、最優秀の賞のアイデアを活かすための仕組みが整備できないかという御質問でございます。

しおかぜ総文祭におきまして、壱岐商業高校が最優秀賞という快挙を成し遂げられました。その主たる提案内容は、合宿誘致による交流人口の拡大と地域活性化を図ることでございます。具体的には、市の島外スポーツ団体誘致促進補助金制度を広く周知させていくことや、壱岐市あるいは壱岐市観光連盟、宿泊施設などが協力のもとに合宿パックの開発及び販売を推進することと捉えております。

今回のテーマ、「おいしい、楽しい、島合宿、壱岐」では、壱岐合宿の現状分析、マーケティングリサーチ、テストマーケティングなど、目的達成のためのさまざまな活動をされておりまして、本当に關心させられたところであります。特に、マーケティングリサーチでは北九州にある83の高校のうち6割近くが壱岐で合宿したいと答えておりますが、一方で市の補助金制度の認知度は1割に満たないという調査結果であります。このことから、情報発信の重要性を改めて認識をしたところでございますが、これらの内容につきましては、検討というよりもこれらを研究した高校生との意見交換をやりたいと思っているところであります。

と同時に、壱岐での合宿を望む高校などの情報をいただけるならば、トップセールスにも伺いたいと思っておりますし、待ちの姿勢ではなく積極果敢に合宿誘致に取り組みたいと考えております。また、議員おっしゃいましたように、この発表のまとめとして壱岐が合宿のメッカとしてにぎわい、離島経済再生の模範となることが私たちの夢であると締めくくられております。心からありがとうございますという思いでございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。

○議員（1番 赤木 貴尚君） いわゆるこの文化祭のインターハイですね、これで日本一になっ

たんですよね。商業高校のグラウンドのところにも日本一って書かれています。この日本一になったこの提案を、ぜひ壱岐市が活かすというところが、またそこがすごい素晴らしいことではないかなと、日本一になった高校生のアイデアを活かすというところは、僕はすごく素晴らしいことだと思うんですよ。

実際、他の自治体においても大分県の大分大学の主催する高校生のアイデアコンテストというものもあるみたいですし、愛知県の方においてもそういう高校生のアイデアを活かすコンテストというものも行われています。対馬においては、ちょっと対馬は隣なのでひとつ比較対照にしてみたいと思うんですが、長崎新聞において地域づくりに大学力ということで、総務省の域学連携地域活力創出モデル実証事業という中で、大学生と意見交換をしてその大学生から実行委員会が立ち上がって、実行委員会で大学生との意見交換をして、その意見をぜひ対馬のために活かそうという取り組みも実際に行われていますし、いろんな自治体でいわゆる学生、この若い人たちのアイデアを活かしてその地域を活性化していこうという取り組みが、やっぱり日本中それなりに行われているわけなんですよね。

その中で、やはりこの日本一になったというところを活かすというのが、やっぱり壱岐で唯一できるところではないかなと思っていますので、ぜひその点を本当も何回も申しわけないんですが、実現させてあげるのは市長だと思いますので、このことについてもう一度だけ御答弁お願いします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 先ほど申し上げますように、この商業高校のリサーチ、そういったものを高校生の目線でやっておるわけでごさいます、現実にも答えも6割が壱岐でやりたいというようなことを、返事があっております。少なくとも、そういった学校につきましては働きかけを行う。その情報をいただけるかどうか、そういったことも含めて、先ほど申しますように情報メディア部の皆さん方と観光関係のうちの担当あるいは観光連盟、意見交換を行っていきたく思っている次第でございます。その高校生の夢に向けて頑張りたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。

○議員（1番 赤木 貴尚君） 子供たちの夢をぜひかなえてあげてほしいなと思っております。それでは、4つ目の質問に行きたいと思っております。

③の観光振興についてということで御質問をさせていただきたいと思っております。

行政報告の中に、九州郵船とオリエンタルエアブリッジの本年1月から4月までの乗降客数の累計が、前年対比103%ということで書いてありました。昨年とはしまとく通貨がない状況で、

今年4月からしまとく通貨を一生懸命、売り出してアピールしているところではございますが、それにしても昨年まではなかったしまとく通貨、今年でじゃあしまとく通貨の効果があらわれたのかなと思ったところですが、現在のところは前年比と同じというところでは、このしまとく通貨を活かしきれていないのではないかと。商売人としては、2割減の券を使われて商売上がったりにならないように、ぜひこのしまとく通貨はもっともっと来ていただくために、具体的な対策を行政はどのように考えているのかということをおちょっと、市長から答弁をお願いしたいと思っております。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） しまとく通貨のことについてお答えいたします。その前に、商売人が2割減ということはどういうことでしょうか。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議員（1番 赤木 貴尚君） しまとく通貨の券で購入されることによって、いわゆる商売しているほうとしては、済みません。言葉足らずで申しわけございません。どのように言ったらいいんでしょうか、しまとく通貨を使っていただくことはすごく商売人としてはありがたいことではあるんですが、どうしても現金とは違って差額が出てくるところで、商売人としてはその利益が少し下がってしまうというところでは、商売人としてはつらいというところちょっと語弊がありますが、その点で積極的にもっと来ていただくことをしていただかないことには商売が成り立っていないところをおちょっと表現したかったんですが、ちょっと言葉足らずで申しわけございません。そのためにも、行政としてももう少し観光客がいっぱい来るように努力していただきたいということをお、答弁していただきたいんです。済みません。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） しまとく通貨については、2.5%の手数料を払わなくてはならないということで、そういった意味では確かに商売の方々にはその分のもうけが減るといいますか、そういうふうになるわけでございますけれども、これはそのことによって販売量がふえるということで、ひとつぜひ商業の方々には御理解いただきたいと思っている次第であります。

議員御指摘のとおり、しまとく通貨の販売開始当初におきましては、しまとく通貨に対する情報発信が不足しておりました。その効果がまだまだという段階でございますけれども、実はこの発行委員長は離島振興協議会長である私が委員長でございます。そうした中で、県の町村会の中で内田さんといひまして、内田正二郎さんといひまして、前の壱岐支庁長が事務局をなさっていらっしゃいます。

現在、これ正直申し上げてだんだんふえております。8月初頭にはしまとく通貨の4月から

6月の販売状況が年間目標の1割弱でございました。この事業を不安視する報道がなされたところでございますが、今申し上げますように旅行業者への旅行プラン造成の働きかけ、自治体が合同で行った大都市圏の報道向け説明会等々を行いまして、7、8月においては販売状況も改善いたしまして、両月合わせて約12万5,000セットを販売いたしました。

60万セットが、御存じのように年間目標でございまして、1月当たり5万セット売らなければいけないわけでございますけれども、ということでございます。8月までの累計販売数は年間目標の3割に至っておるわけでございます。今、報道で数字が出ておりますけど、それよりも最新の数字を申し上げます。8月末締め切りまでの、これはパック旅行というのがございますが、それが今までの報道の情報には入っておりませんでした。それを入れましたところで、8月末締めの換金状況を申し上げます。6市町全体で9億5,400万円でございます。そのうち壱岐市は3億2,000万円でございます、全体の約33%を占めております。

今後も、しまとく通貨の利用促進について、発行委員会をはじめ関係自治体全体で取り組んでまいります。壱岐市としても独自に、特に福岡市周辺でのしまとく通貨の情報発信に取り組んでまいります。具体的には、今度の補正予算に計上しておりますけれども、ホームページ等で公開できる市内加盟店のCM動画の製作業務や、マスメディアを通してしまとく通貨を活用した観光閑散期の冬場の壱岐への誘客を図る事業を実施してまいりたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。

○議員（1番 赤木 貴尚君） 確かに7月までの数字だったので、私も実際はこの8月、7月後半から8月までの観光客の増加というのが数字よりも実際目に見えているものはありました。私も多くの方に出会って、しまとく通貨の効果だと思っておりますが、やっぱり今後も気を緩めずに閑散期にこのしまとく通貨を使っていたら、ぜひ離島だけの得点ですので、現在対馬が今のところトップをいっているようですが、この対馬を抜いて壱岐がトップになるようにしていただきたいと思っておりますが、この点について市長お願いします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 赤木議員は誤解をなさっているかと思えますけど、対馬がトップは年間の観光消費額が対馬がトップなんです。ですから、当然対馬がたくさん売らないかんわけですけども、今は壱岐がトップでございます。申し上げますと、壱岐市が、大きく言います。3億2,000万円、33.6%、対馬2億3,600万円、24.8%、五島市2億4,100万円、25.3%、小値賀810万円、0.9%、新上五島1億3,500万円、14.2%、宇久町、佐

世保市宇久ですね。1,200万円、1.3%というふうになっておりまして、今のところ壱岐市はかなり頑張っている状況でございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。

○議員（1番 赤木 貴尚君） 勉強不足で申しわけございませんでした。壱岐市がトップということで、このトップを維持し続けるように努力していただきたいなと思っております。時間がなくなってきましたが、頑張つてあと残り4つを進めたいと思っておりますが、3つですね、失礼しました。

同じく観光振興について質問させていただきたいと思っております。

壱岐市における観光案内所はどこだと認識されていますかということをお聞きしてみたいと思っております。私の感じるところで観光案内所、ありますが、市長として観光案内所は壱岐はどこだということをお聞きしたいと思っております。お願いします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 壱岐市における観光案内所はどこかということでございます。市内の観光連盟の案内所は3カ所でございます。航路の玄関口である郷ノ浦港ターミナル、芦辺港フェリーターミナル、印通寺港ターミナル内の1階に配置されております。

この案内所でしまとく通貨も販売いたしておるところでございます。特に芦辺港におきましてはフェリーターミナルとジェットfoilターミナルの2棟が離れております。ジェットfoilの利用者が、同ターミナルに観光案内所を訪ねてこられるケースが多いことから、7月に案内看板を設置したところであります。また、芦辺港の案内所においては航路の離発着時刻に合わせた臨時配置であったものを、本年4月から常時配置に変更し案内業務を行っております。

観光案内所につきましては、1カ所に人員を集約し、専門性を持った多機能な案内業務ができるにこしたことはありませんけれども、壱岐の航路の玄関口が3カ所ございまして、観光客の利便性の上では現在のような配置が必要と思われまます。

しかし、それぞれの案内所には1名ないし2名で業務を行っている関係上、しまとく通貨の対応が不十分な状況となっております。この通貨の利用促進を図るため、販売体制の強化も必要であると考えておりますので、9月会議の補正予算において臨時雇用などの所要の補正予算を計上し、各案内所に販売補助員を配置し、下船客に対する販売窓口の周知や芦辺港ジェットfoilターミナルでの臨時販売対応など、旅行者がよりわかりやすく購入しやすい販売体制を整えることとしております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。

○議員（1番 赤木 貴尚君） 私も感じるところを市長が御答弁いただいたので、今後はやはりもう少し突っ込みたいところはあるんですが、観光案内所ですね、人員配置だけをするのが観光案内所じゃないと思うんですよね。その観光パンフレットを置いたりとか、壱岐の情報を集約する無人の観光案内所があってもいいんじゃないかなと思っております。その点では、各町に空き店舗があるんですよね。この空き店舗の活用という点では、この空き店舗を生かしてパンフレットを置いたりとか、壱岐市の情報をそこに全て閲覧できるような場所があるのもいいんじゃないかなという一つアイデアがございます。

それはなぜかという、現在のターミナルビルでは開放時間が限られておりますので、その時間帯しか情報を得ることができないと。それ以外には観光連盟なんです、観光連盟がある場所というのも非常にわかりにくい場所にあるので、ぜひその情報を発信、インターネットというのも今さっきから何回も言っていますけども、フェイスブック等での情報発信もしながら、アナログ的に無人の空き店舗を利用した情報発信ができる観光案内所というのもぜひ設置されてはいいかなと思っております。そういうアイデアもぜひ取り入れていただきたいと思いますが、市長、御答弁をお願いします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 空き店舗はたくさんございます。利用できればいいかなと思いますけども、空き店舗をやっば無施錠でおくというのは、なかなか中には難しいんじゃないか。外にはいいかもしれませんけれども、個人所有の空き店舗を、いいよとおっしゃる方があればぜひ利用したいと思っていますけど、なかなか今セキュリティー等々の問題もございますので難しいかなと思いますが、一つの御提案として受けとめさせていただきます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。

○議員（1番 赤木 貴尚君） 空き店舗の活用というのは、私の最大とするテーマの一つでもございますので、今回は観光案内所という提案をさせていただきましたが、今後は私も一生懸命勉強して、空き店舗を活用する方法を考えていきますので、ぜひともに考えていただければなと思っています。

それでは、残り2つ頑張りたいと思いますが、壱岐市市民病院についてということで御質問させていただきたいと思います。大変、もう壱岐市市民病院も外来患者、入院患者等もふえて、私も何度か行きましたところ多くの患者さんにぎわっているというか、病院なのでぎわってはいけないんですが、多くの患者さんがお見えになっております。車をとめようと思うと、やはり駐



車スペースが足りないということで、とある患者さんですと、車をとめるために2周したという、ぐるぐる回ったという方もおられました。

現状は、職員の方も駐車スペースを考慮しているいろんな場所に、患者さんの迷惑にならないところということで一生懸命頑張っておられる現状ではございますが、やっぱり現状は駐車スペースが足りないという状況になっておりますので、その点について市長の御見解をお願いいたします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 壱岐市民病院の駐車場が足りないということについてお答えをいたします。

さきの行政報告で御報告いたしましたとおり、外来患者数は4月からの診療体制の充実によりましてふえております。御質問の駐車スペースの件につきましては、議員御指摘のとおり現状では十分とはいえない状況になっております。

まず、市民病院の正面玄関前の駐車スペースについてでございますけれども、車椅子や特殊車両を除く一般来院患者用の駐車区画は107台分でございます。特に来院者の多い月曜日と専門外来の開設が多い金曜日につきましては、おおむね午前9時30分から10時30分までの間、駐車場に空き区画がほとんどない状況になっております。

現在、緊急な対応策といたしまして、空きスペースを利用いたしまして、簡易の駐車区画を病院の東側に10台分、病院裏側の職員用駐車スペースに15台分、計25台分新たに設け、混雑する時間帯は病院の事務職員で利用可能な職員用駐車スペースへ誘導を行っているところでございますが、なお不十分な状況でございます。

このため、現在、市民病院正面玄関西側の芝生部分350平方メートル程度の規模で、福祉車両の乗降場所を含む駐車場を増設したいと考えています。駐車台数につきましては車両助線とも関係いたしますので確定はいたしませんけれども、本年度中の完成に向けて準備しているところでございます。完成までの間、御迷惑をおかけすることになります。御理解、御協力をお願いいたしますと存じます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員。赤木議員、時間は一応過ぎていますが、今回は最初の一般質問ということで、議長裁量で時間を延長して最後の質問を続けてください。ただし、次回からは時間は厳守するようにしてください。

○議員（1番 赤木 貴尚君） ありがとうございます。それでは、今の質問に関しては理解しましたので、早急な対応をお願いいたしますと思います。

それでは、最後の質問をさせていただきたいと思います。

商工業の振興についてということで、9月会議の行政報告において壱岐市乾杯条例の報告のみということでございました。私は、商売人の一員として商工業、すごく関心、関心というか、やはり考えていかなければいけないことだと思っております。その中において、9月会議の行政報告、私、議会としては2回目の行政報告を受けたわけですが、商工業、どんな行政報告があるのかなと思いましたが、5行で、128文字の乾杯条例についてのお話だけした。非常にがっかりしたといえぱがっかりしました。

それ以外にちょっと調べたところ、6月会議におきましては行政報告において、商工業の振興については一言も触れてなかったと。平成24年度の9月会議の行政報告、商工業に関しては7行でした。平成24年6月会議行政報告、商工業の振興に関してはこれまた全くありませんでした。非常に商売人としてはちょっと悲しい報告だなと。実際に報告されないほかに活動もあったのではないかなと思っているところではございますが、そこら辺のことを商工業の振興に対しての今後の対策というか、どのようなお考えをお持ちなのか、市長に最後の御答弁をお願いします。

○議長（町田 正一君） 市長、これで最後の答弁とします。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 商工業の件について、壱岐焼酎による乾杯推進条例だけでなかったかということではございますが、商工業の振興につきましては本年の最重要施策としましては、しまとく通貨の利用促進に取り組んでいるところでございます。しまとく通貨事業については、交流人口の拡大という観光振興の側面と島内消費の促進という商業振興の側面が一体となった事業でありますので、行政報告においては観光振興の中で述べさせていただいております。

商工業振興につきましては、年間を通じまして壱岐市商工会、壱岐市観光連盟とも連携して施策を実施しておりますが、市議会例例会9月会議の行政報告に報告をさせていただいておりますのは、行政報告というのは前会議以降、今会議までの間に大きく変わった状況、施策、そういったものを報告をするということになっておりますので、特別な施策をしていないときは行政報告にのってまいりません。そのことをおわかりいただきたいと思いますし、いま一つ商工業そのものを指すということではございませんけど、例えば離島甲子園、市は3,500万円出してあります。

これは、離島甲子園、スポーツ大会みたいでございませうけど、これはとりもなおさず商工振興でございまして、いろんなイベント、私はイベントをしたいと思っております。それは、商工振興につながっているんだという、そういったことでぜひ商工振興についてはこれをしましたよということではなくても、行政全般の中でそういった面に触れているということで御理解願いたいと

思っています。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 赤木議員、簡単にもうお願いします。

○議員（1番 赤木 貴尚君） お金は回ってくるというところで、商工業にも必ずイベントを行うことによって回ってくるというところは十分理解しているところではございますが、私も商売人の代表者として意見をしたいと思いますので、今後は、今さっきも言いましたが空き店舗等の利用等でいろんなアイデアを出していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

本日は、ちょっと時間もオーバーしまして御迷惑をかけました。次なる呼子議員にも御迷惑をかけまして済みません。これからもよろしくをお願いします。

以上で、私の質問を終わりたいと思います。

〔赤木 貴尚議員 一般質問席 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって、赤木貴尚議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（町田 正一君） ここで、暫時休憩をいたします。再開を14時5分といたします。

午後1時57分休憩

.....

午後2時05分再開

○議長（町田 正一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、3番、呼子好議員の登壇をお願いします。

〔呼子 好議員 一般質問席 登壇〕

○議員（3番 呼子 好君） 9月議会の2日目の最終でございます。

先ほど赤木議員が多岐にわたりいろいろ質問しておりまして、市長もお疲れだろうと思っておりますが、私、最後でございますから、よろしくお願ひ申し上げます。

私今回、4件ほど御提案を申しております。

まず1点目は、壱岐市の庁舎建設についてということで載せております。

まず、庁舎建設検討委員会の菊森会長ほか、16名の委員の皆さん方には敬意と感謝を申し上げますというふうに思っております。

市長は、今回の行政報告で壱岐市庁舎検討委員会の関係について述べられております。壱岐市庁舎検討委員会につきましては、これまで4回の会議が開催されておりますが、現庁舎の現状と課題、新庁舎建設の必要性、新庁舎整備の基本理念、新庁舎の機能及び規模等について協議を行われております。今後、これまでの協議がさらに深まるものとともに、新庁舎の建設場所、現庁

舎の活用議論が進められ、26年3月には答申をいただくという、そういう行政報告をされております。

私は、市長のこのことについて建設ありきの感がしてなりません。というのは、現庁舎の庁舎あるいは支所、事務所の機能をどのようにするのか、今までどおりするのか、今の分庁方式をやめて一本化にするのか、そうすると住民との不便が生じてきますが、その対応をどのようにされるか。本庁舎建設の財源は何か。合併特例債を利用するならば、平成30年までには建設する必要があるというふうに思います。

現在進行中の庁舎建設検討委員会の協議内容につきまして、答申が出る前でなかなか詳細については難しいと思っておりますが、できる範囲で我々議会、そして一般住民にも報告してよいのではないかというふうに感じております。住民の方の一番関心ごとは、本庁舎の建設場所ではないかというふうに思っております。マスコミでは、いろいろな情報が飛び交っておりますが、いろいろな角度から住民の利便性を優先して建設されることと思っております。私の私案でございますが、今日の政治情勢から見て、国の権限委譲が地方に及んでおると。そういう中で、国は県へ、県は市町村へという、そういう権限委譲が多岐にわたっておりますし、これからもふえるだろうというふうに考えております。

現在、石田支所におきまして、県とのワンフロア化が実施されております。そういう中で、今の振興局の建物を見ますと43年に振興局が建っております。かなり古い。そういう中で、私は県と市の合同庁舎あるいは併設、そういうのができないかというふうに考えております。振興局もあと十数年したら建てかえが来るわけでございますので、それと事務的な利便性、そういうのを考えた場合によくないかという、そういう私の私案でございます。

分庁舎の、各庁舎の問題だけでなく、私は子供たちの学校、小中学校の校舎もかなり古い、40年以上たっておるという中でこれをどうするのか、私は沓岐全体の公共施設のあり方、これを検討する必要があるんじゃないかというふうに思っております。午前の鶴瀬議員の質問にありましたように、遊休資産の関係等も出てくるわけでございますが、我々議会としても最終の議決権じゃなくて、答申を出す前に先ほど言いますように、話ができるところを話をさせていただいて、そして我々議会としても特別委員会等を設ける必要があるんじゃないかというふうに思っておりますが、市長は今日までの検討委員会の内容報告ができればお願いをしたいというふうに思っております。

○議長（町田 正一君） 呼子議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 呼子好議員の御質問にお答えをいたします。

市庁舎建設について、建設検討委員会の協議内容、答申のときは建設ありきではないのかとい

うこと、それから本庁、支所、事務所の機能は廃止するのか存続か。あるいは、県との併設はどうか。壱岐市全体の公共施設のことを考えた中でやらなければいけない。また、答申が出る前に議会としていろんな研究をしたいということでございましたけれども、本年5月27日に壱岐市庁舎建設検討委員会を立ち上げました。

これにつきましては、合併特例債の対象期間が5年間延長されたことを踏まえて、市民サービスの向上、事務の効率化、庁舎維持管理経費の節減、施設の老朽化、原子力防災対応など、新庁舎建設について検討する時期が来ておると考え、本委員会を立ち上げました。このことについては、今まで申し上げてきたことでございます。

その中で学識経験者、各団体等の代表者等、公募委員を含め、計17名の委員を選任し、ながさき地域政策研究所、研究所長の菊森淳文委員が会長に選任され、会長宛てに新庁舎の基本構想案について諮問を行ったところであります。その内容といたしましては、先ほど申されましたけれども、現庁舎の現状と課題、新庁舎の建設の必要性、あるのか、ないのか、ですから決して建設ありきではございません。

その次に新庁舎整備の基本理念、新庁舎の機能及び規模、新庁舎の建設場所、現庁舎の活用でございまして、平成26年3月までに答申をいただくことといたしております。これまでの会議では、本庁分散方式、各庁舎に各部があることによる弊害、現庁舎の老朽化、原子力災害等を想定した防災拠点施設としての条件などの課題を上げ、これをもとに市民皆様にとって利便性の向上、行財政運営の効率化、合併特例債の活用、防災拠点施設としての必要性などを協議され、また新庁舎を建設することへの方向性が出されたところでございます。

また、新庁舎整備の基本理念といたしましては、誰もが利用しやすい庁舎、市民の生命、身体、財産、そして安全安心な生活を守る防災拠点としての庁舎、環境に配慮した庁舎、壱岐市の特性を生かした庁舎、市民参画の拠点としての庁舎を上げ、新庁舎の構成、機能、面積、庁舎建設にかかる事業費と財源、建設時期について協議がなされております。これらにつきましては、庁舎建設検討委員会会議終了後に会長、副会長による記者説明が行われ、ケーブルテレビにおいてもその内容が放送されておるところでございます。

現在の本庁、支所、事務所につきましては、今後委員会の中で、現庁舎の活用について議論がなされることとなっております。この答申を受けて、庁舎建設についてさまざまな面で判断したいと考えておるところでございますが、今日までの会議の内容を申し上げますと、第1回が5月27日、この日は委嘱状の交付、諮問、各庁舎の経緯、財政状況等の説明を行っております。第2回が7月4日、現庁舎の現状と課題、新庁舎の必要性、新庁舎の整備の基本理念について協議が行われております。第3回が7月23日、新庁舎の機能及び規模についての協議でございます。第4回は8月23日、新庁舎の機能及び規模、新庁舎の財源に関する試算、壱岐市の財政状況、

新庁舎建設の時期について協議が行われておりますが、9月26日に第5回が予定されております。協議内容については第4回と同じだということをお聞きをいたしております。そして、第6回が10月25日に予定されております。

先ほど呼子議員おっしゃいましたが、私はこの検討委員会には白紙の状態です。検討項目を上げて、その内容について白紙の状態です。本当に壱岐のためになる。こうしたが一番いいんだという、そういった協議を期待をいたしておるところでございます。先ほど呼子議員おっしゃいました県との併設、壱岐全体の公共施設との関連、そういったものも私は議論されると思っておるところでございます。また、答申が出る前に云々ということについては、私としては慎むべきだという考えを持っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） 新庁舎建設というそういうことですが、施設が現在の各支所の築年数をちょっと調べてみました。郷ノ浦庁舎が、本庁舎が昭和50年建築、勝本が昭和48年、芦辺が昭和55年、石田が47年ということで、芦辺が一番新しいところで、古いのが石田というそういうふうになっております。それとあわせて各事務所が、例えば郷ノ浦へ行きますと6つの事務所がございます。これはほとんど46年、47年の建設ということでございますが、この事務所につきましても併設しているのが保育園、幼稚園そういう兼ね合いが出てくるわけでございます。この支所あるいは事務所については解体するのか、どのようにするのか、もし検討委員会の中でもそういう話が出ておれば、ちょっとお聞かせ願いたいなというふうに思っております。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 事務所等につきましても、現庁舎の取り扱いということで諮問の中に入っているということでございますけれども、いまだその点についての検討までには至っていないというところでございます。

また、事務所等、先ほどおっしゃいますように保育所等、僻地保育所等との併設もございません。これはまた、幼保一元化の中でもその辺は話していくことになるかと思っております。いずれにしても、事務所につきましても現庁舎の取り扱いというところで協議をするということになっております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） 答申の中で分庁方式じゃなくて、もう一本化にするんだというそ

ういう答申が出た場合に、市長はそのとおりにされるのかどうか、再度お願いします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 呼子議員の御質問にお答えします。

答申というのは、一つの大きな意見だということございまして、御存じのように市の事務所というのは、議会の3分の2の特別議決も要ります。また、その前に私はさまざまな面から検討して御提案を申し上げるということになるかと思ひますし、その諮問内容につきましては、これは私は市民全体にやはり問うことも一つの方法ではなかろうかというふうにも考えておるところでございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） この建設については、市民が十分納得するそういうことを、建設の方向でお願いをしたいというふうに思っております。

それでは、2点目でございます。

特養ホームの関係、建設についてでございます。この件につきましては、当初は24年3月には完成する、そういう予定でございましたが、大震災そして津波等によりまして大きく様変わりをしたところでございます。その後、この特養ホームにつきましては、余り意見と申しますか何も出てこんわけでございまして、どのようになっておるのかということ一つは心配しておりますし、この件について建設場所、そして地元住民に説明したのか、そういうところはもしもはっきりしておればお願いしたいと思っておりますし、私は従来の建設予定地、ここに液状化対策をすればできるんじゃないかというふうに思っておりますし、そのほうがもう設計もできておりますし、お金もかからないということを考えております。それと、経営形態については公設民営化の100床にされるのかどうか、そこのところをお願いしたいと思います。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 呼子議員の2番目の御質問、特別養護老人ホームの建設についてということでございます。

議員御指摘のように、特別養護老人ホームの建設におきましては、3・11大震災及び消防法のクリアによりまして、現在まで凍結の状況にあるところでございます。しかしながら、私は特養の建てかえについては湯本地区に建てるということ、言明をしておったところでございます。

その後、建設工法を検討する中で鯨伏地区から今年の2月、特養ホームの建設は湯本地区へ早急な建設についての要望が提出されたところでございます。その候補地として当初計画の特養

ホームの下の埋立地と、鯨伏幼稚園の横の勝本ゲートボール場の2カ所が候補地として要望され、できれば震災での津波対策、液状化対策がクリアできる湯本の高台でもある勝本ゲートボール場を候補地としてお願いがございました。今年度地質調査が必要なことから、当初予算において調査費を計上したところでございます。

私は、やはり湯本で建てるということを決めておりますので、地元が要望される場所が一番いいという一つの考えから、現在勝本ゲートボール場を候補地として、今年の4月25日に地質調査実施に向けての説明会を湯本地区で行ったところでございます。地質調査を5月から8月までの工期で実施したところでございます。湯本の説明につきましては、8月で完了いたしましたので、まずその結果について近日中に議員皆様に説明を申し上げ、御協議申し上げたいと考えております。その後、鯨伏地区への説明を行いたいと思っております。

当初、計画しておりました場所の液状化対策につきましては、事業費が安価にできるのではないかとございまして、計画時に地質調査を行いました。23年2月でございまして、その調査資料をもとに液状化対策の概算見積もりをとりました結果、建設地のみ建屋部分のみでの対策費が約1億円でございます。避難時に必要な道路等の液状化対策を考えますと、さらに対策費が増高いたします。そういったこともありまして、地質調査の結果がよければ地元が要望されている高台での建設をと考えているところでございます。

また、経営形態は公設民営化で100床規模かということでございまして、経営形態につきましては、当初多床室でなければ生活保護の方々が入居できないということが一つ。もう一つは、多床室ではユニット式でなければ国の補助がでないということもございまして、多床室を導入するならばやはり公設民営でしかできないという判断から、公設民営ということをお願いがございましたけれども、法の改正によりまして事業者と市が補助を行うことでユニット型にも生活保護の方が入所できる法改正がございました。

したがって、そうなりますと生活保護の方も施設に入れるわけですから、今進められております、そして補助金がつくユニット型でいきたいと思っております。そうなりますとあえて公でしなければならぬという理由もなくなるわけですから、民設民営も視野に入れまして今後検討をいたしたい。今後の壱岐市の財政事情も鑑みまして、議員皆様と委員会あるいは全員協議会等でお話を申し上げたいと思っております。どういう経営形態が適切であるか見極めた上で判断していきたいと考えております。

当初の計画どおり100床規模で計画いたしまして、ほかに20床のショートステイ、これは今回は障害者のショートステイも含めたところで計画いたしたいと思っております。着工につきましては、経営形態、建設規模によっては開発許可も必要かもしれません。その他、各種手続に長期間を要しますので、はっきりした着工の時期が回答できませんけれども、できるだけ早い



時期にとは考えております。議員皆様の御理解をお願い申し上げます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） かなり液状化にお金がかかるなというふうに今、実感したわけですが、地元が高台にというそういう要望であれば、私は仕方ないかなというふうに思っておりますが、当初の計画地についても無駄にならないように何らかの施策をお願いをしたいというふうに思っておりますし、今市長は公設民営じゃなくて、民間も対象になるというそういう話でございますので、要は待機者がかなり待機しておるということも一つ考慮に入れていただいて、早急にどちらにしろ建設をお願いしたいというふうに思っております。できれば、着工の時期がいつごろになるのか、次回場所等について議会に報告されるということでございますから、それまでにわかればお願いしたいなというふうに思っております。

実は、きのうの夜ニュースでこの特養ホームの放映があっておりましたが、100床規模をもう小さくして20床とか10床とか、そういう分散型でやっておるということで、新潟県の長岡市がそういう取り組みをしておるということで、やっぱ近くの自分の育ったそういう近くがいいんだという、そういう発想でちょっと変化しておるということがきのう放映であっておりましたが、そういうのを参考にされればというふうに思っています。

それでは、次の3番に行きたいと思っています。

3番については6次産業化の取り組みでございます。安倍政権がこの前話が出ておるのは、来年4月からの消費税の8%値上げ、これを10月に決断するという方向でございますから、多分値上がりがるんじゃないかというふうに思っております。その中の2%部分を経済対策に充てるということが言われておりますので、そういう対策の中でこういう6次産業化とかいろいろな事業がありますが、そういうのを積極的に取り組む、そういう必要があるんじゃないかというふうに思っておりますが、この農林水産商工連携による雇用の拡大に私はつながる事業だというふうに思っていますし、現在壱岐の1次産業はもう高齢化が、農業でも水産でも多うございまして、量は取れない、収益も少ないそういう中で大変苦勞をしております。

こういう6次産業化で私は付加価値をつくって、そして販売すると、そういうことを市としても指導する必要があるというふうに思っていますが、以前もこういう質問をして、市が積極的に乗り出してほしいという、そういうことも言いました。私の知った範囲で6次産業化の成功しておる島根県の隠岐という島がございまして、ここは、親元は建設会社でございまして、建設会社をしながら和牛の繁殖を100頭と肥育を300頭飼っております。これを東京に販売しておるということで、隠岐生まれ、隠岐育ち、隠岐牛というそういう形で販売をして成業しておるのがございまして。

そして、ここで新たにやっておるのが急速冷凍、魚あるいはほかのでもやっておりますが、急速冷凍をやって、それを販売しておると、そういうことが出ておまして、この急速冷凍については細胞を崩さないという急速の35度から40度あるそうでございますが、それを活用してやっておるといのが出ておりました。近くでは、呼子の漁協、そして天草あるいは熊本の玉名、ここは農協がやっておりますが、農協の野菜、果物、そういうのを急速冷凍しながら、旬のやつを消費者に与える、そういう取り組みをしております。極端にいいますと、壱岐の握りずし、これも急速冷凍してそれを東京のお客さんに提供できる。そういう活気的なこういう施策でございますから、こういうのを積極的に取り組んでいただきたいというふうに思っておりますが、市長の考えをお聞かせ願いたいと思っております。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 呼子議員の3番目の質問、6次産業化の取り組みについてでございます。

雇用の拡大と所得の向上を図るためには、農漁業者は生産だけでなく加工、販売を一本化する、いわゆる6次産業化が進められておるところでございます。6次産業は農水産業と商工業がマッチングしたものでありますから、基本的にそれぞれの産業の活性化と相乗効果をもたらしまして、雇用の拡大につながるものでございます。

本市におきましては、農産物、水産物にそれぞれに農協、漁協等の生産者団体の御努力によりまして6次産業化が図られております。また、本年度から地域おこし協力隊として活動している海女さん後継者、雑穀・古代米ブランド化支援担当の両隊員におきましては、各組織、海女組合、農事組合法人原の辻におきまして本市の農水産物を活用して新たな商品を開発することにより、6次産業化を進める取り組みを行っております。

農業関係につきましては、壱岐市農協加工部会、壱岐ゆず生産組合、農事組合法人原の辻、大左右ファーム等が生産加工販売を行っており、安全安心な食べ物を届けようと努められておられます。また、直売所での農産物等販売によりまして、地域農業の活性化を目指し、農山村における雇用の創出と所得の向上を図っており、1次産業並びに地域の活性化に貢献しているものと思っております。

今後は、壱岐産の新鮮な野菜、加工部会等の製品につきましても、他産業と連携した新たな商品開発に取り組み、壱岐産ブランドとしての確立を図ってまいります。水産関係につきましては、業者が取り組んでいる壱岐産養殖アワビを利用した煮貝などの、貝を煮たやつ煮貝などの高付加価値化商品の加工、販売事業がございます。この業者の事業につきましては、平成23年度に6次産業として認定されております。また、平成25年度には健康志向の時代にあった自社で養殖した昆布を利用した食品の加工販売事業で、2社目の業者が認定をされております。このよう

に、2業者が6次産業化に取り組んでおり、大変すばらしいことでありますけれども、今後は漁業者あるいは団体等にも6次産業化に取り組んでもらいたいと考えておるところでございます。

漁業、漁村の6次産業化の取り組みは、水産加工、水産物直売、漁家レストラン、漁家民宿等さまざまな活動がございますが、こういう取り組みを行うには産業間との連携をとりながら雇用の増加を図っていきたいと考えております。

次に、農水産、畜産物を急速冷凍処理し、細胞組織を生かし新鮮なおいしさを再現する技術で付加価値産業の推進についてでございますけれども、現在、農水産、畜産物をマイナス40度から55度の急速冷凍処理は農協、漁協は保有をしております。隠岐の島ではCAS等で急速冷凍されておるわけでございますけれども、マイナス35度の冷凍処理機を今持っている漁協がございまして、アジの開き、カマスの開き等に使用されております。今まで各団体からの話もございませんけれども、農漁協が必要をもし言われるならば協議をする準備はあるところでございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） この取り組みについては国もかなりいろいろなメニューを出しております。離島流通効率化事業とか離島漁業再生支援事業とか、6次産業化推進事業とか、そういう大きなメニューで出しておりますので、こういうものはある程度活用しながら、ぜひ加工技術、そうすると雇用も生まれるわけでございますから、どうしても壱岐の場合は人口減少というのが一番ネックでございますので、これの歯どめにもなるんじゃないかと思っておりますから、これは農協、漁協とそして市が一体となって推進する必要があるというふうに思っております。

きのうの市長の鶴瀬議員の答弁におきましても、そういうのはかなり6次産業化に予算化しておるところを話されておりますが、ぜひこれが軌道に乗るまでお願いをしたいというふうに思っております。CASの技術については、先ほど市長が言われますように、もし壱岐の団体あるいはある程度法人化された方たちが、そういうふうに手を挙げれば、一緒になって推進をお願いしたいというふうに思っておりますが、もし来年でもそういう希望者があればされるのかどうか、そこのところだけお願いして。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 市が単独で云々ということが非常に厳しゅうございますので、やはり起債なり補助なりということになるかと思えます。時間的に余り時間はないと。来年ということになりますと余り時間はないのではないかと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） 多分出てくるだろうと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

それから、4点目でございます。

4点目については、私は郷ノ浦の町の中を想定していろいろ出してありますが、固有名詞を使わないほうがいいんじゃないかという、そういう御指摘がありましたので、固有名詞は使いませんが、きょう私は写真を持ってきているんです。先ほどの赤木議員のやつは大きかったですが、ちょっとこれは後もって担当課に見せたいと思っておりますが、一番子供たちが通う道路、そして市の職員も公務員も一番通う道路です。これはガードレールがこのようにさびておる。これは市の職員も毎日通っておられるからわかるだろうと思っておりますが、ぜひこの改修なり、塗装するなりそういうことをひとつお願いしたいということ、ここに写真で掲示をしております。

それと、もう一つは側溝ふたです。先ほど今西議員が言われておりますように、これは郷ノ浦の繁華街、飲み屋さんの近くでございますが、私も宮崎のお客さんを連れて行ってちょっと酔っ払っておりましたからこけて、どうもなかったんですが、ちょっと文句を言われました。そういう中で凹凸がある、そしてふたも破損しておる。そしてふたの上にはゴムマットをですね、個人がやったかしりませんが敷いてある。そういう町の中の状況でございますから、これについてもぜひ改善・改修をお願いをしたいというふうに思っています。

それからもう一つは、これは交通の関係です。郷ノ浦バイパスができて、あそこを通る車が特にフェリーからおりたときあたり多うございまして、かなり危ないというそういう危険箇所があります。郷ノ浦漁協の前に突っ込むまで行っておりませんが、そこで大事故につながるという事故があったということでございますから、私はあのバイパスができてかなりの量が向こうに流れておるといふふうに思っておりますから、そういうのについても警察と協議しながら交通安全対策をお願いしたいということで、きょうは質問をしたわけでございますので、市長の見解をお願いしたいと思います。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 呼子好議員の構築物の改修と交通安全対策についてという御質問でございます。

今、写真を見せていただきました場所、そこに限らず私は今西議員のときにもお答えいたしました、もろもろのいわゆる補修をしなければいけない箇所につきましては、やはり当然のごとく補修しなければならないと思っておるわけでございまして、ただ先ほどから申しますように、行政というのはここはしましたよということをちゃんと記録にとる必要もございまして、お手数

ではございますけれども申請方式をとらせていただいているところでございます。緊急やむを得ないときは電話でも結構でございますけれども、そうでないときには一応申請方式をさせていただいておるわけでございます。ひとつそういったときには16名でという、少ない議員さんになられましたけれども、公民館長さん方をお願いをしていただければ幸いです。

それから、郷ノ浦漁協前の交通量につきましては、おっしゃいますように本当に東触から郷ノ浦港までの最短コースということで、かなり交通量がふえていることは承知していただいております。御指摘の道路は臨港道路でもございまして、壱岐振興局の所管であると思っておりますけれども、早急に振興局及び警察と協議をしてみたいと思っておりますのでございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） 先ほどの今西議員の質問の中で道路の維持管理が約2億何千万円ですか、昨年から1億4,000万円くらい予算化しておると、オーバーしておると、そういうお話でございますが、私はこの維持管理については現在田舎のほうでは道づくりというのがありますが、これがもう高齢化でなかなかやれなくなっているということでございます。

ですから、これについてもやっぱ近いうちにどのようにするのか、そういうことも検討しなければ公民館自体での運営というのも難しくなってきたおるといふふうに思っておりますから、そういうのもあわせてこの市道の維持管理についてもお願いしたいと思いますし、先ほど言った写真で見せたところは一部でございますので、全体的にもう少し網羅しながら、事故が出ないように市としてもお願いを申し上げまして、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

〔呼子 好議員 一般質問席 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって、呼子好議員の一般質問を終わります。

以上で一般質問を終わります。

○議長（町田 正一君） これで本日の日程は終了しました。

次の本会議は、9月27日金曜日午前10時から開きます。明日9月19日及び9月20日は各常任委員会、9月24日は予算特別委員会、9月25日は決算特別委員会をそれぞれ開催します。なお、今期定例会より予算特別委員会及び決算特別委員会はケーブルテレビにて中継を行います。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後2時47分散会